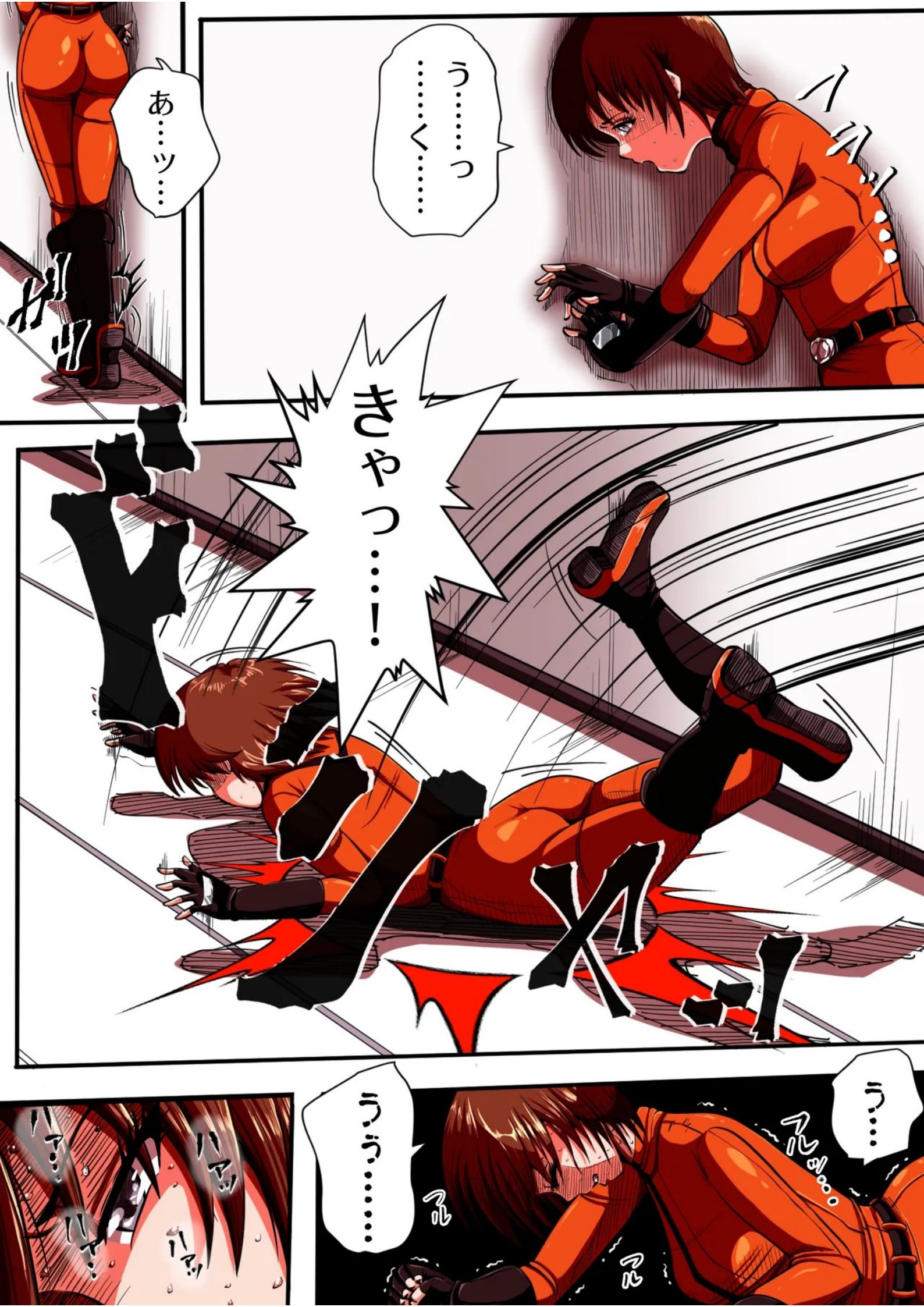
ウ
C市B地区に
怪獣出現！
至急隊員は現場へ
急行せよ！
繰り返す……
怪獣の詳細は現在
報告無し！
市街地にも被害が
及ぶ可能性がある！
至急現場へ急行せよ！
ハァ…
ハァ…
ズリ…
ガク
ガク

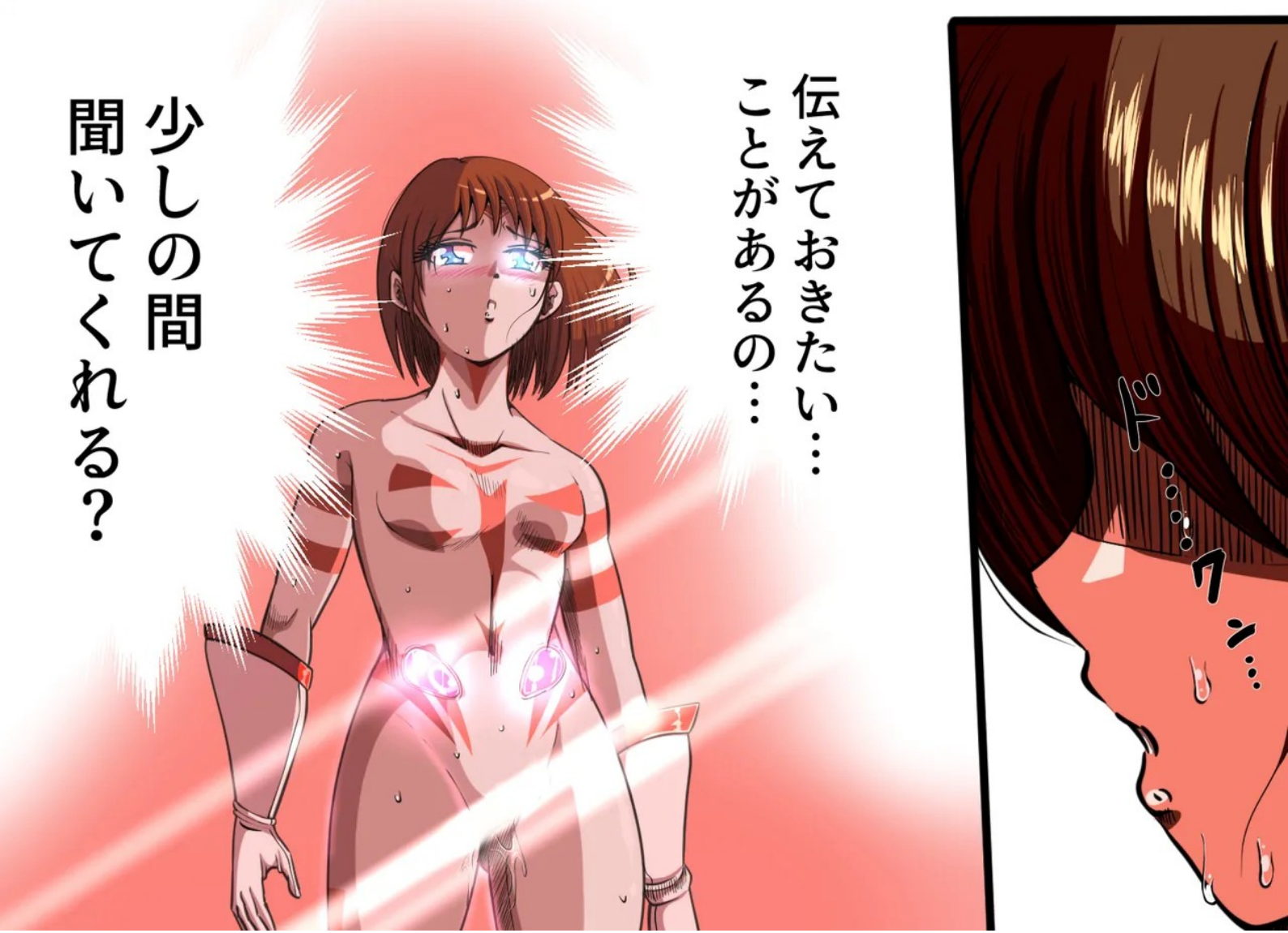

う……っ
……く……
あ…ッ…
きゃっ…！
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ハァ…
う…
ううう……

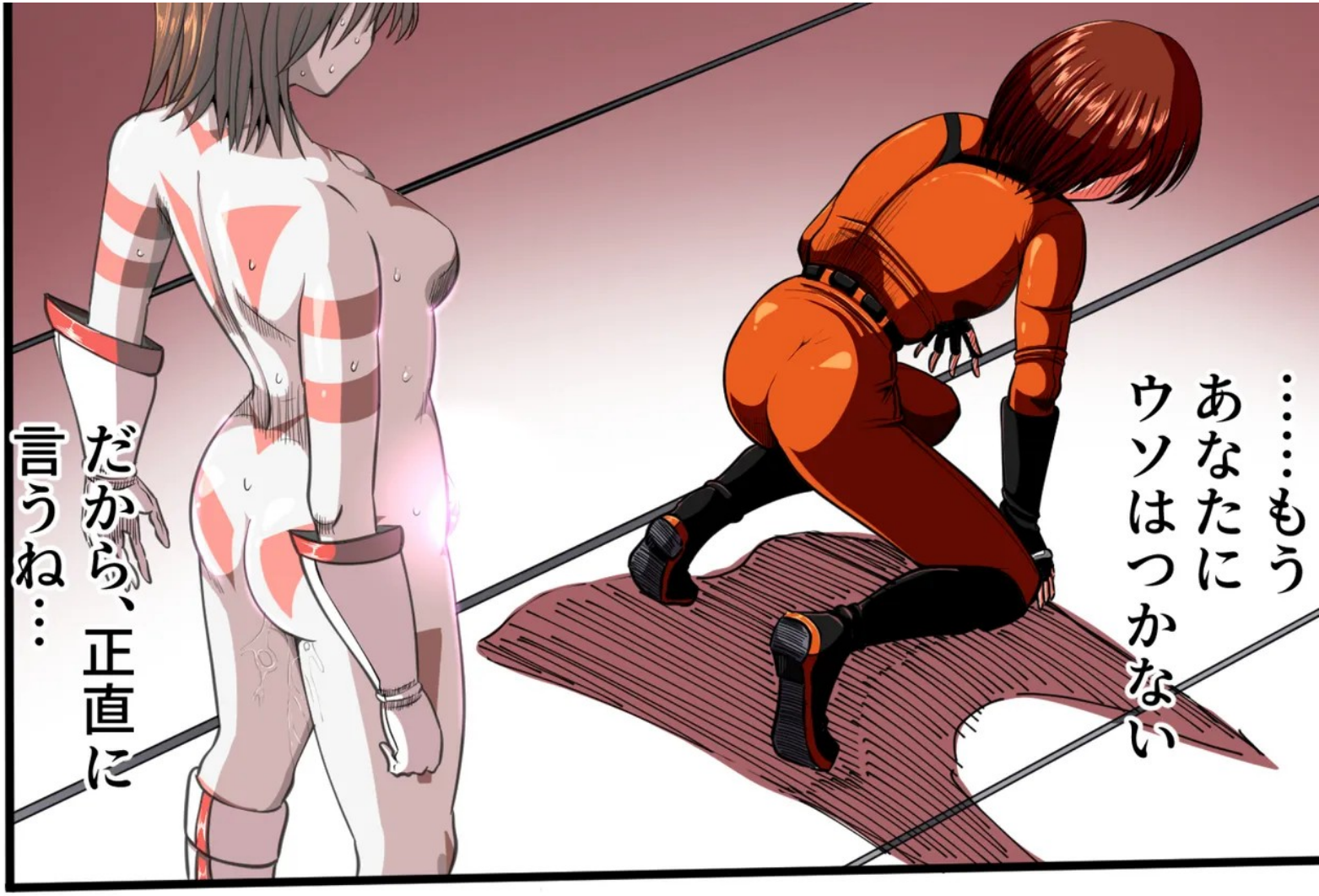
か、身体に力が入らな…い…
グ
グ…
手足に…重い石でも括り付けられてるみたい……
た…立たな…きゃ……！

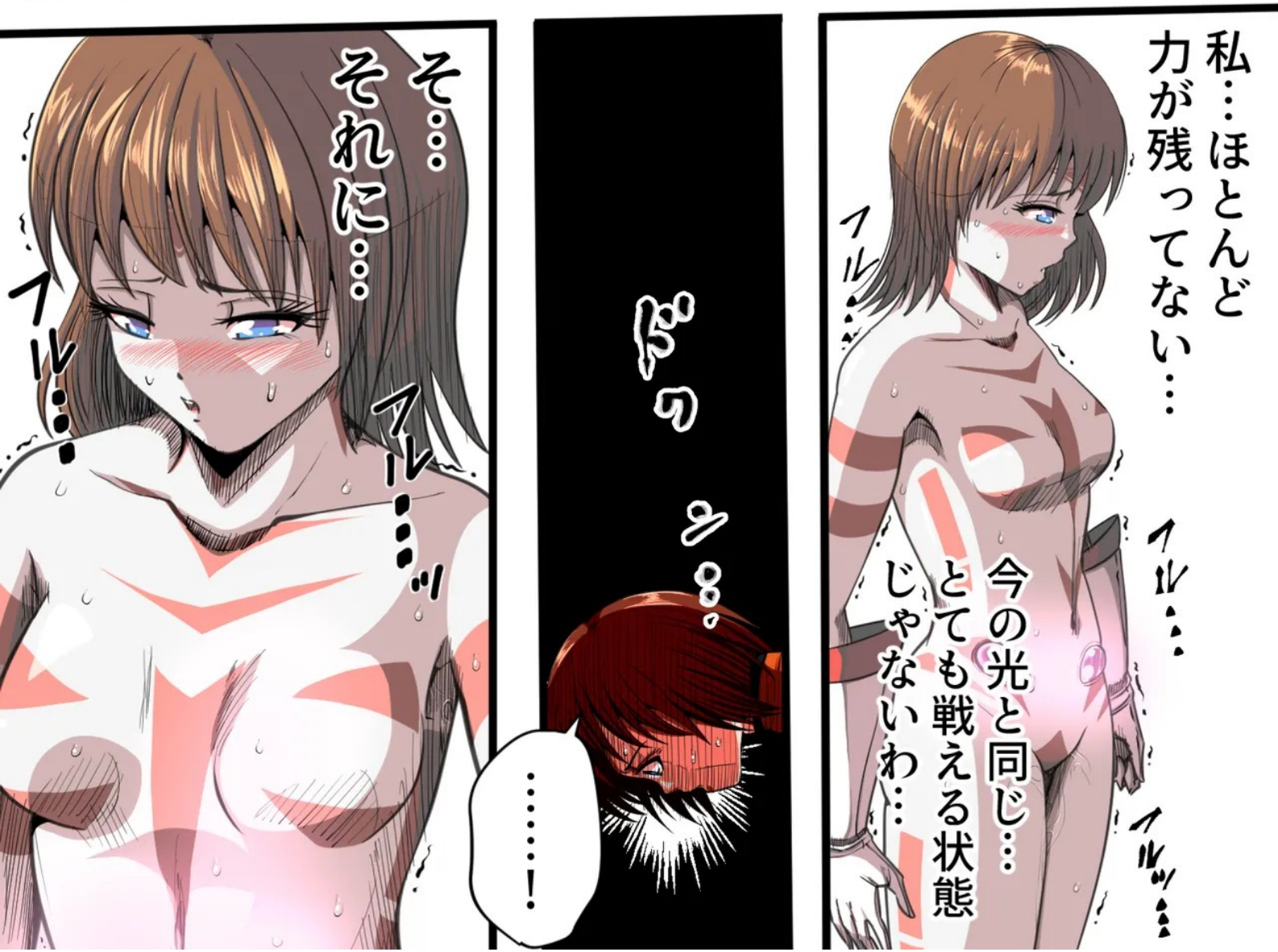
う……ッ…！
ううう…ッ！
フル
フル…
ヨロッ
急が…ないと……！

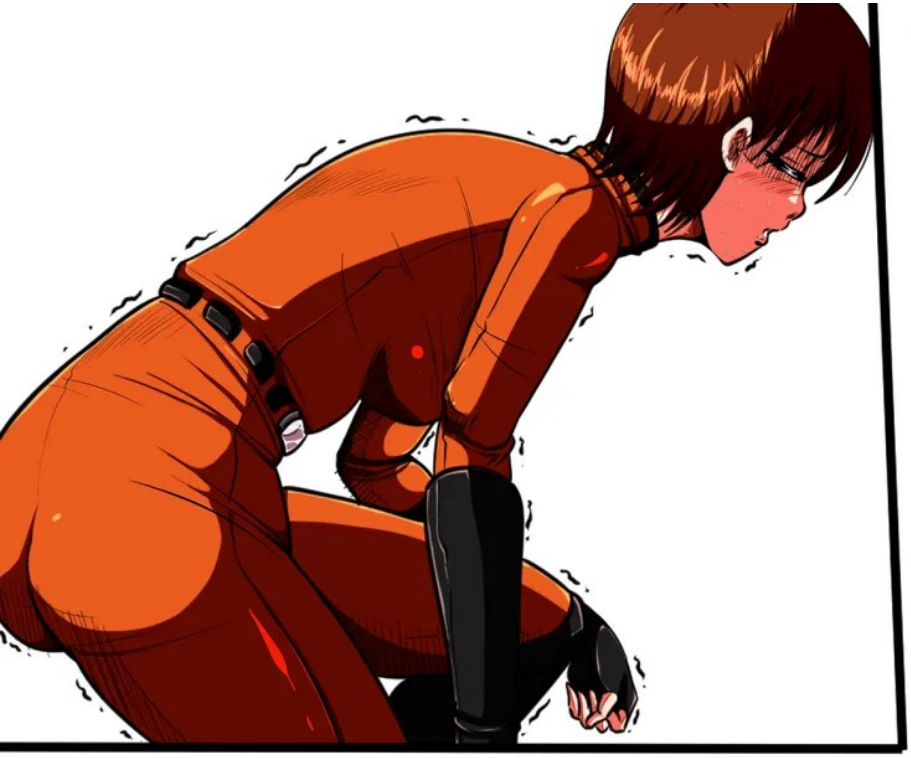
繰り返す！怪獣出現！
怪獣出現！至急隊員は現場へ急行せよ！

間違いなくブラン星人が呼んだ怪獣だわ……
わ…私たちが行かないと街の人々が…ッ…！
…光…


ドクン…
伝えておきたい…ことがあるの…
少しの間聞いてくれる？


……もう
あなたに
ウソはつかない
だから、正直に
言うね…

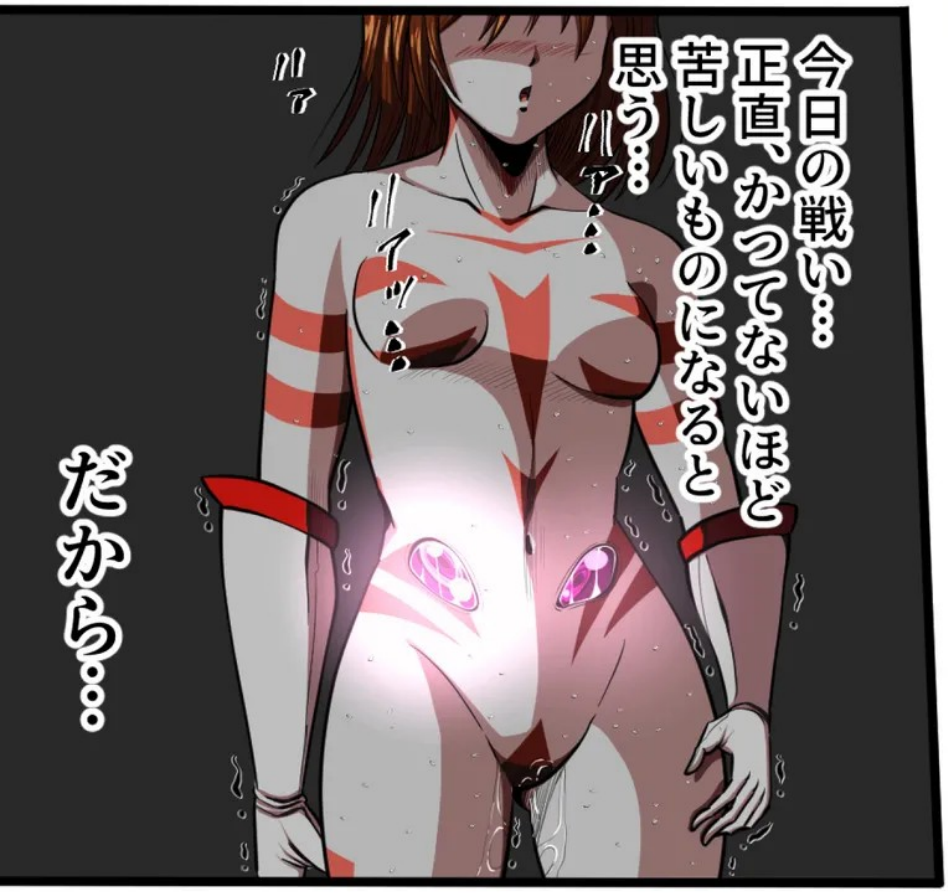

私…ほとんど
力が残ってない…
今の光と同じ…
とても戦える状態
じゃないわ…
フル…
フル…
フルッ…
ど
ク
ン…
……！
そ…
それに…
フル…ッ
フル…



身体の疼きが…
止まらない…の…
あの針のせい…で…

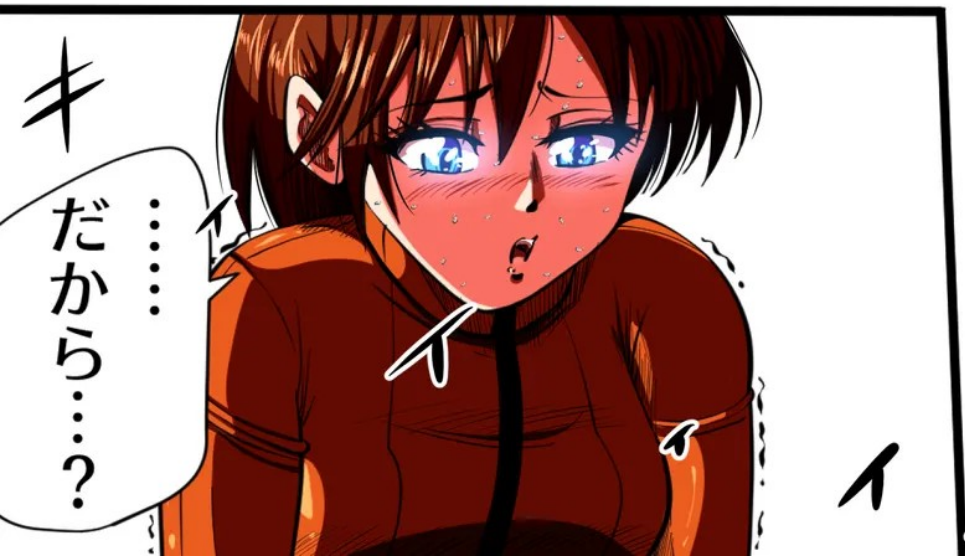
どうしても…
抑えられない…！

…！



今日の戦い…
正直、かってないほど
苦しいものになると
思う…

だから…



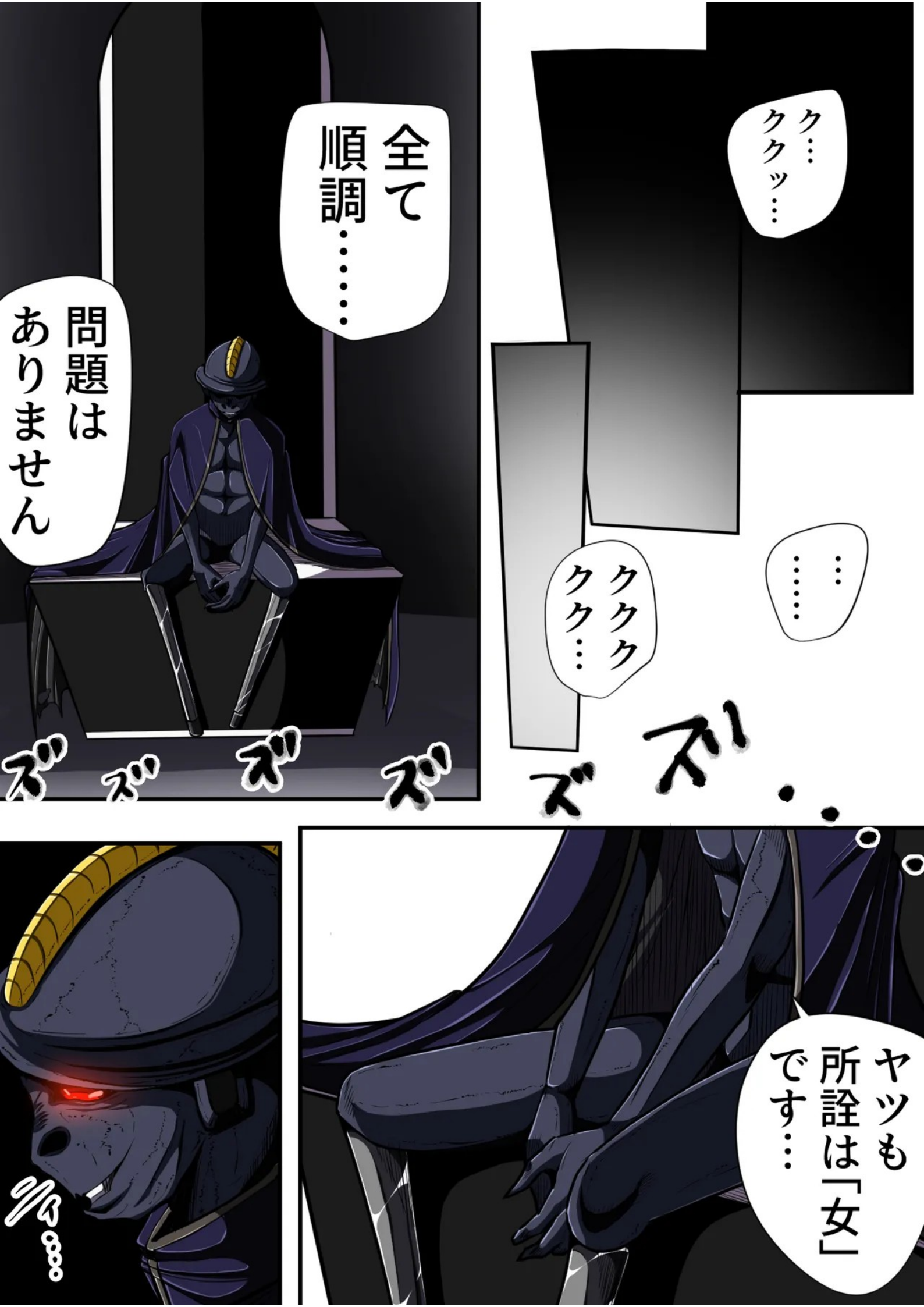
キ

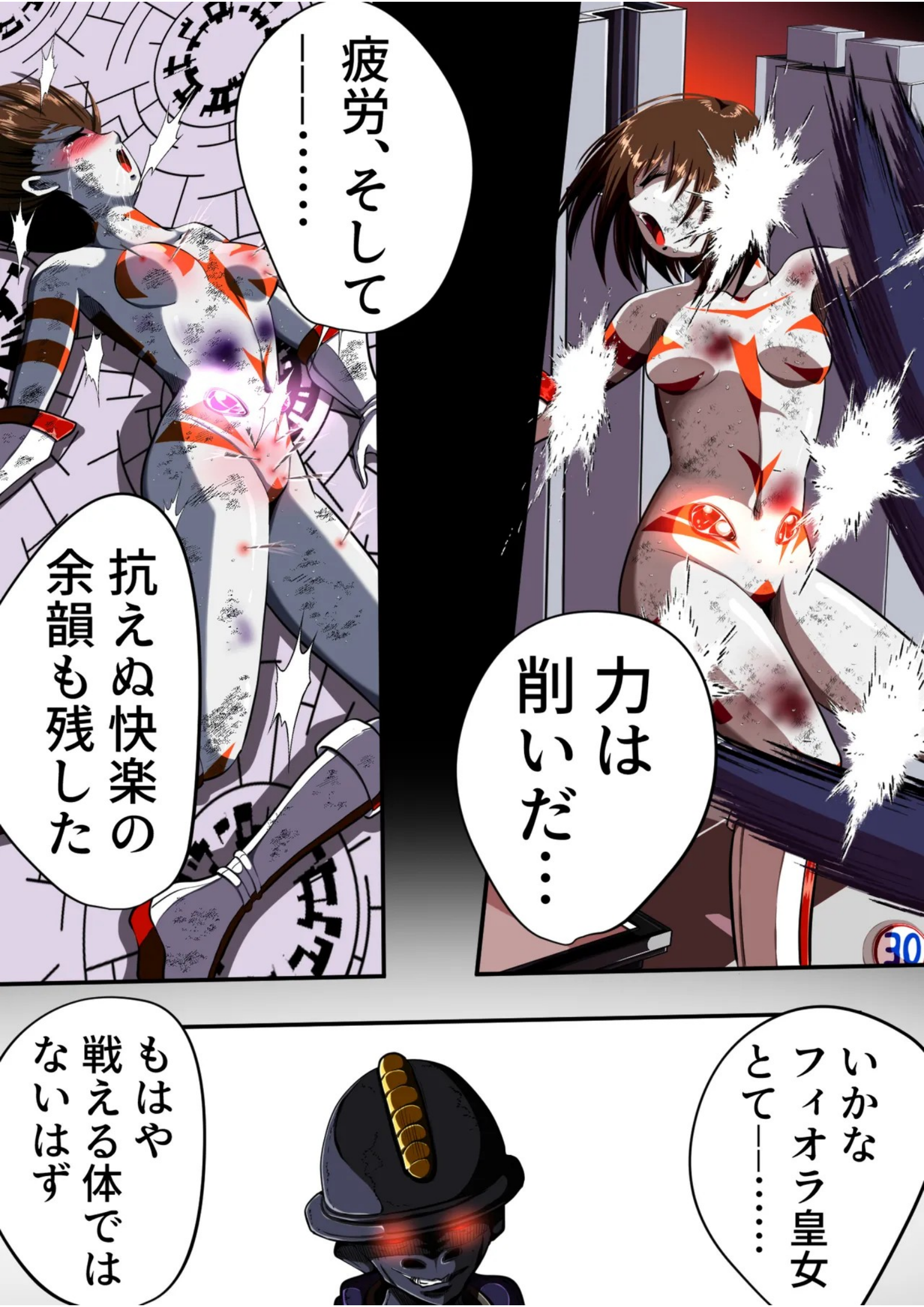
……
だから…？

私、覚悟は
出来てるわ
だから
何も言わないで
……

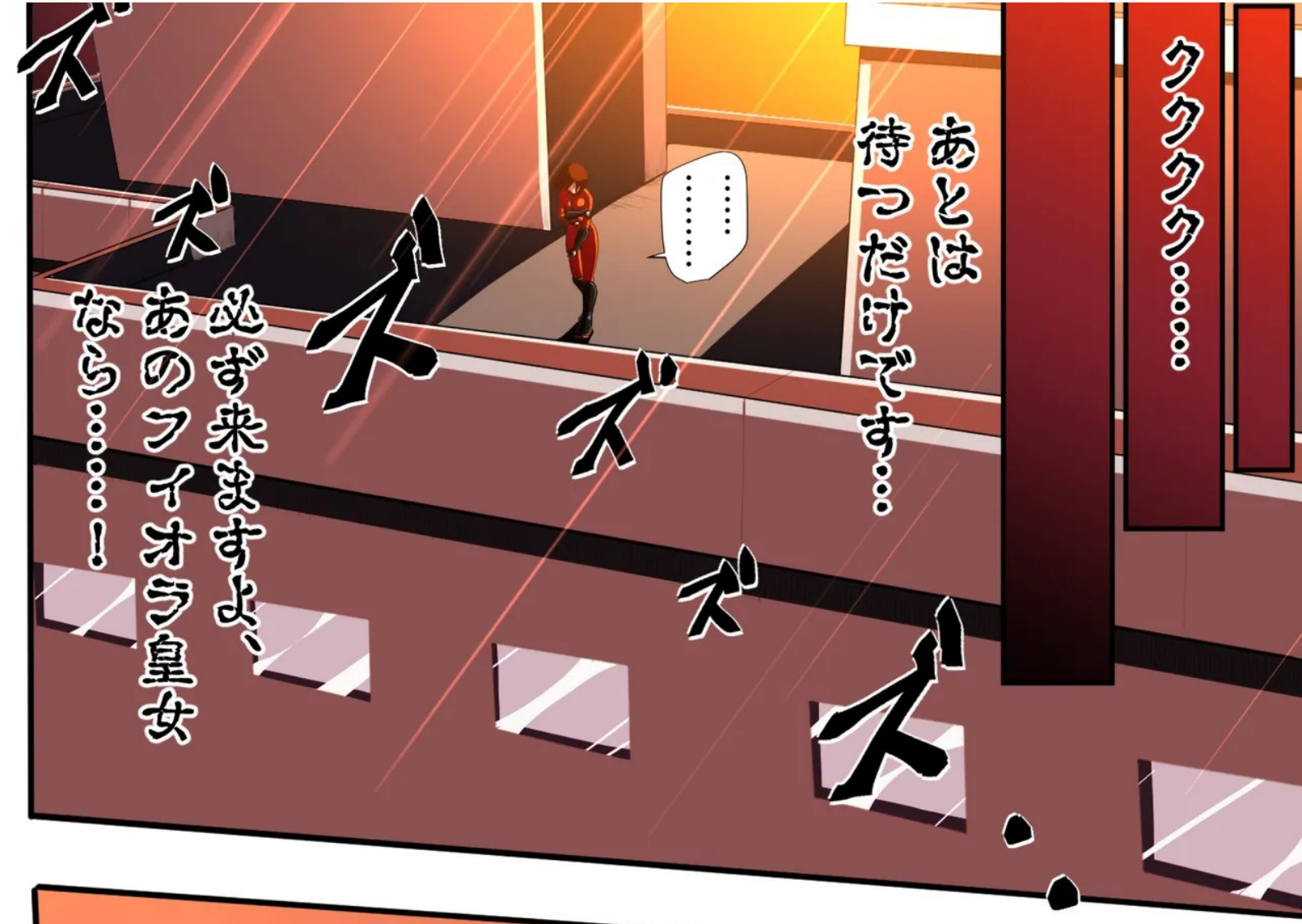
光…

行こう
あの宇宙人は
私たちを待ってる


ク…
ククッ…
……
ククク
ク…
ズ
ズ
全て
順調……
問題は
ありません
ズ
ズ
ズ
ヤツも
所詮は「女」
です…
ﾌﾌｫ…


力は削いだ…
疲労、そして――……
抗えぬ快楽の余韻も残した
いかなフィオラ皇女とて――……
もはや戦える体ではないはず

ド
ド
ド
ド
今ならあの女はほぼ無力…！
嬲(なぶ)るも犯すも我々の思うがままです……!!


ククククク……
あとは待つだけです…
……
ズ
ズ
ズ
ズ
必ず来ますよ、あのフィオラ皇女なら……！

負ける……
ハァ
ハァ
ハァ
勝機など無い、と…
わかっていても……ね

光、聞いて。
戦い方について
なんだけど…

……うん…

さっきも
話した通り……
今日の状態では私、
普段の半分も力は
出せないと思う…

……うん…

長期戦になれば
確実に…エネルギーが
切れてしまうわ

そうなって
しまったら…
まず
私達に勝機は…

だから…

……

敵がどんな相手
だろうと、最初から
ありったけ…！

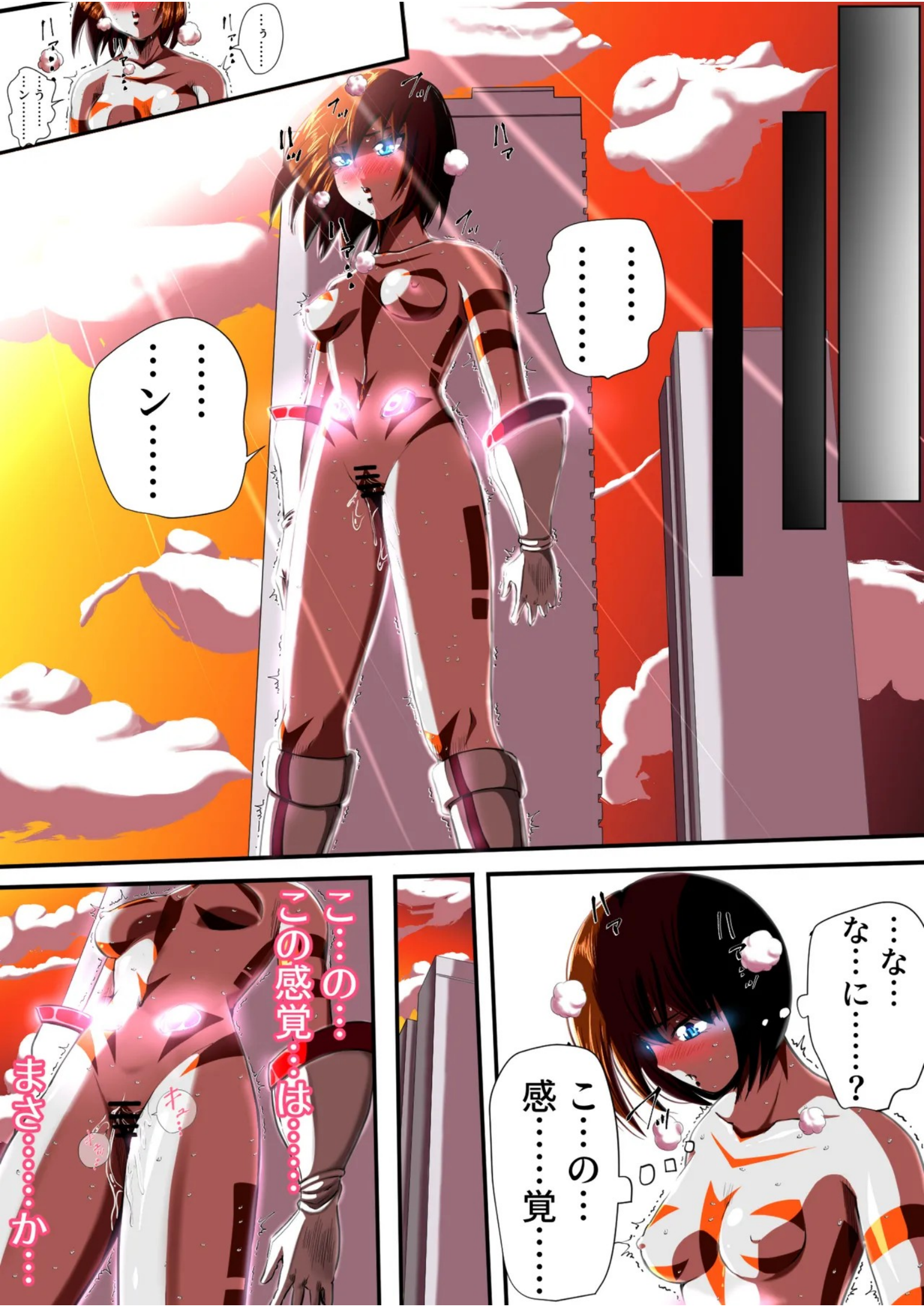
全開でいく…!!

光もそのつもりで
私に気持ちを
合わせて欲しいの

一緒に……!!

一緒に……
戦ってほしいの……!!
……
……わか…った…
…ありがとう
フィオラ……
私の気持ちを
わかってくれて…

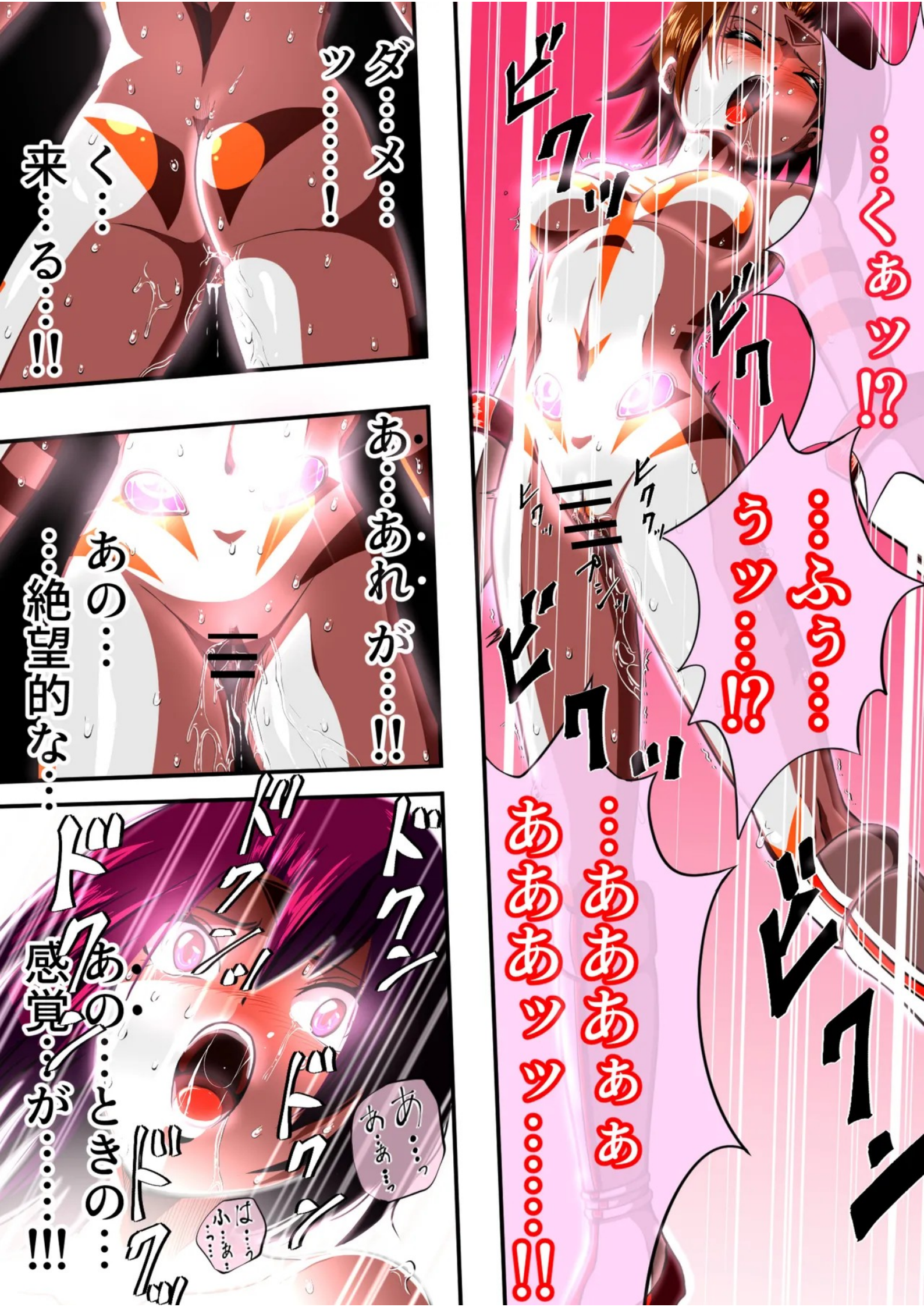
いこう!!!
フィオラ!!!
光…!!
貴女(あなた)となら
私は負けない!!


…う……
ハァ…
ハァ…
…う……
ン……
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ハァ…
……
……
ン……
……
な…な…に……？
こ…の…感…覚……
こ…の…感…覚…は……
まさ……か…
キュ…

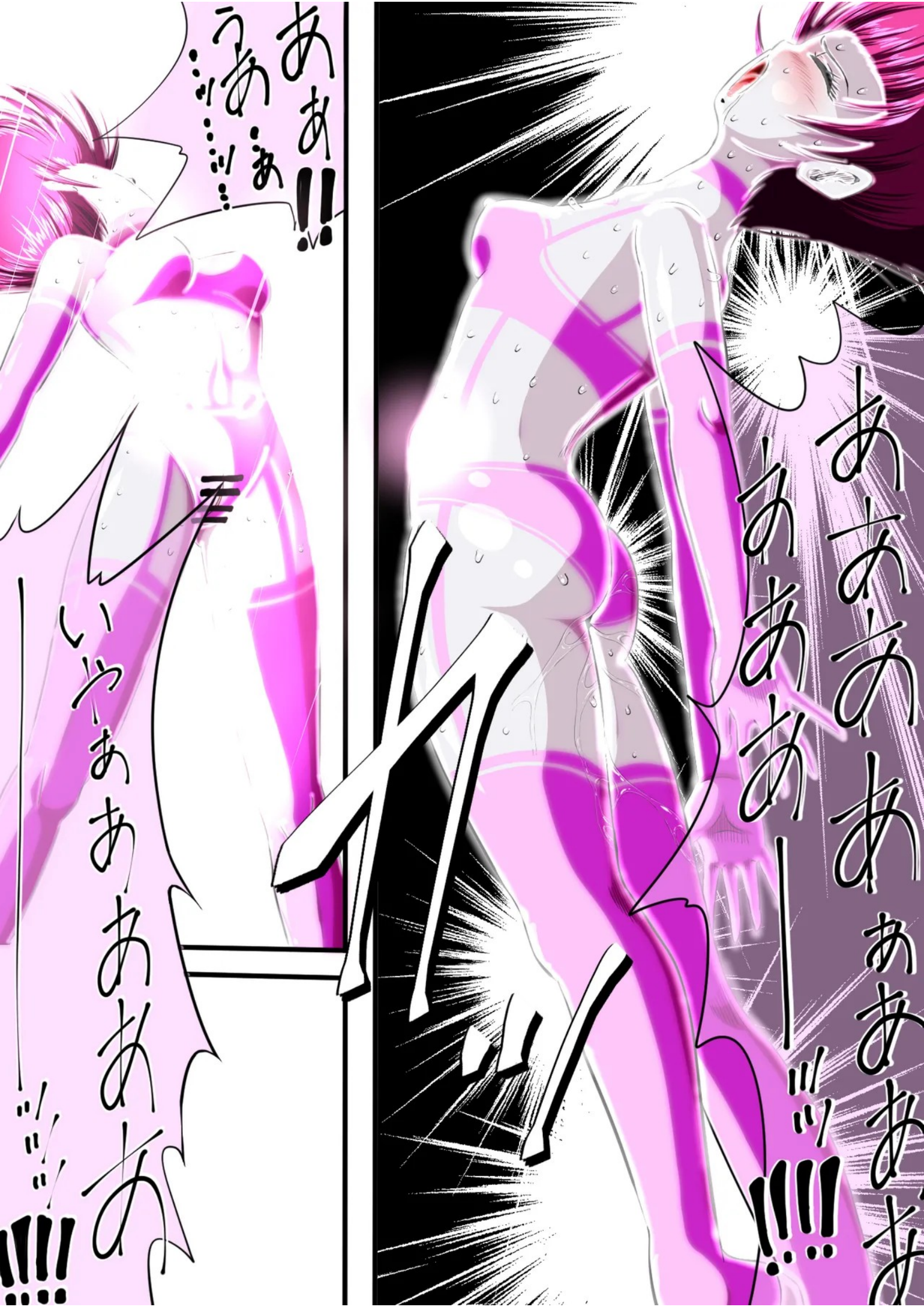
私…知ってる…
この感覚…は…
アノ…
全身…が…熱く…なって……!!
フルッ
フルルッ
感覚…が…敏感に……!!
ヒクッ
ヒクッ
これ……間違い…ない……!!
あ…あの…ときの……
ドクン
あのとき…の感じ…!!
ドクン
ドクン
あ…ぁ…
ドクン
ドクン
ドクン
ン…ぁぁ…ッ
ふ…ふぅ…
ドクン…

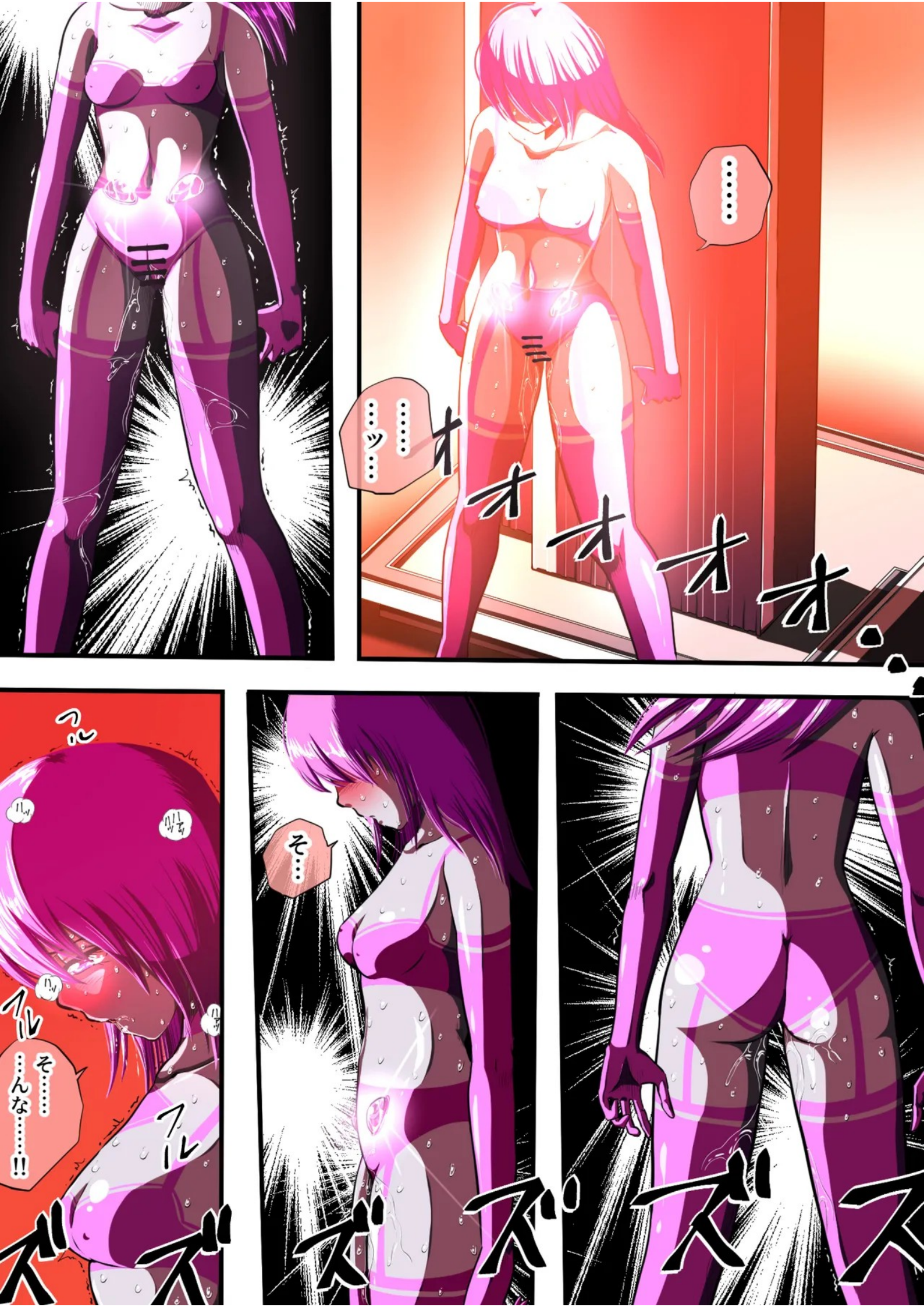
お…思い出すのも
おぞましい……
ズ
ズ
ズ
ズ
あのとき
の……!!
ズ
あの……
ときの……
!!
ド
ク
ン

あの…
あの…!!!


…くぁッ!?
ビクン
…ふぅ…
ッ…!?
ビクッ
ビク
ビクッ
ビク…
…あああぁぁ
あああッッ……!!
ダ…メ…
ッ……!
く…
来…る…!!
あ…あれが…!!
あの…
…絶望的な…
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
あ…っ
あ…あ…
あの…ときの…
感覚…が……!!
は…ぅ
ふ…ぁ…

あっ…
…あ…
く…ッ
…あ…
あぁ…ッ
…う…!!
…あぁぁぁ…ッ
…あ…ンッ…!!
はぁう…ッ
…あ…ぁ…
…ン…!!
ビクッ…
い…ヤッ…!!
ダ…ダメ…ッ!!
あああああッ…!!!
ドクン…
あああッ…
…ッ…
ああンッ…!!
カラ…ダ…
がッ…
ドクン
ドクン
ドクン
熱…く…
止まら…な…
…!!!


あぁ!!
あぁぁ……
いやぁぁぁぁぁ!!!
あぁぁぁぁぁ!!!
あぁぁぁぁぁ!!!

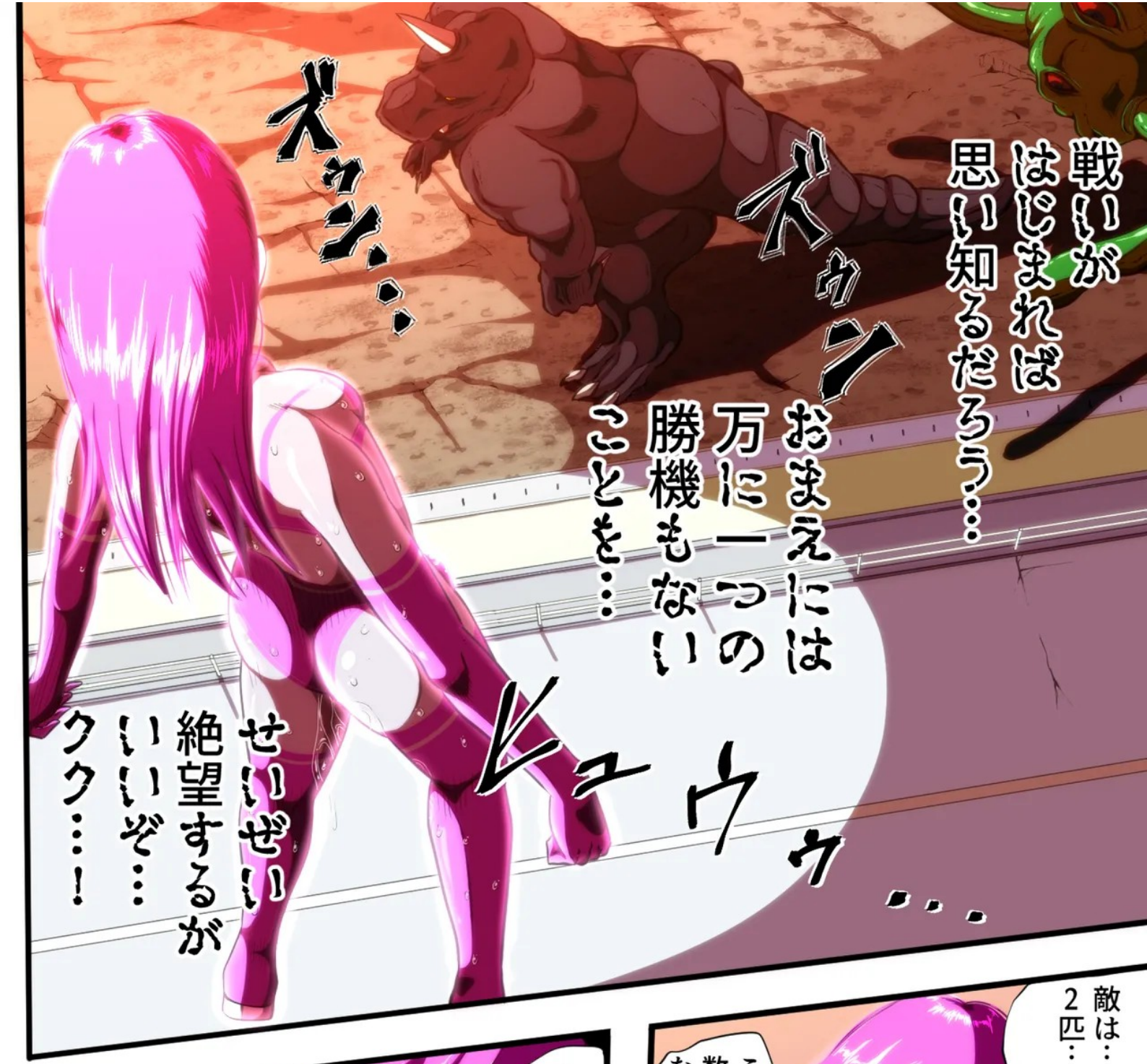

……
……ッ……
オオオオオ…
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
フル
フル
そ……
…んな……!!
そ…
ズズ
ズズ
ズズ

フィ…フィオ…ラ？
これ……一体…
……
…
ブルッ
ブルッ
ブル…
ど…どうした…の!?
カラダ…変わっ…て…
…そ…んな…
そんな……ッ…
フィオ……ラッ…！
だ…大丈夫ッ……!?
…これ…は…
あのとき…の……!!
く…う…
…ぁ……
返事……して…っ
フィ…オラ……ッ…!!!
も…う…
もう…ダメ
かも……
キュ…

…何も…
…何も……聞かないで…
…光……
フィ…
フィオラ…？
行こう…
私たちには時間が……
時間が……ないわ…！
弱気になっちゃダメ……!!
この星の皆を守るんだ……!!
光を守り抜くんだ……!!
ドクン
ドクン

ククク…
そろそろ来るか…？
フィオラ…
敗けると
わかっていながら
――……
傷つきさらばえ…
疼くカラダを
抑えつけながら――…
…楽しみだ…
実に楽しみ……！
美しいお前をじっくりと
じっくりと――……
オモチャに
してやるから
な……!!
せいぜい
最期まで
あらがうがいい…
お前には
今日――…
確実に…
――……
死んでもらう
ククク…
ククク…

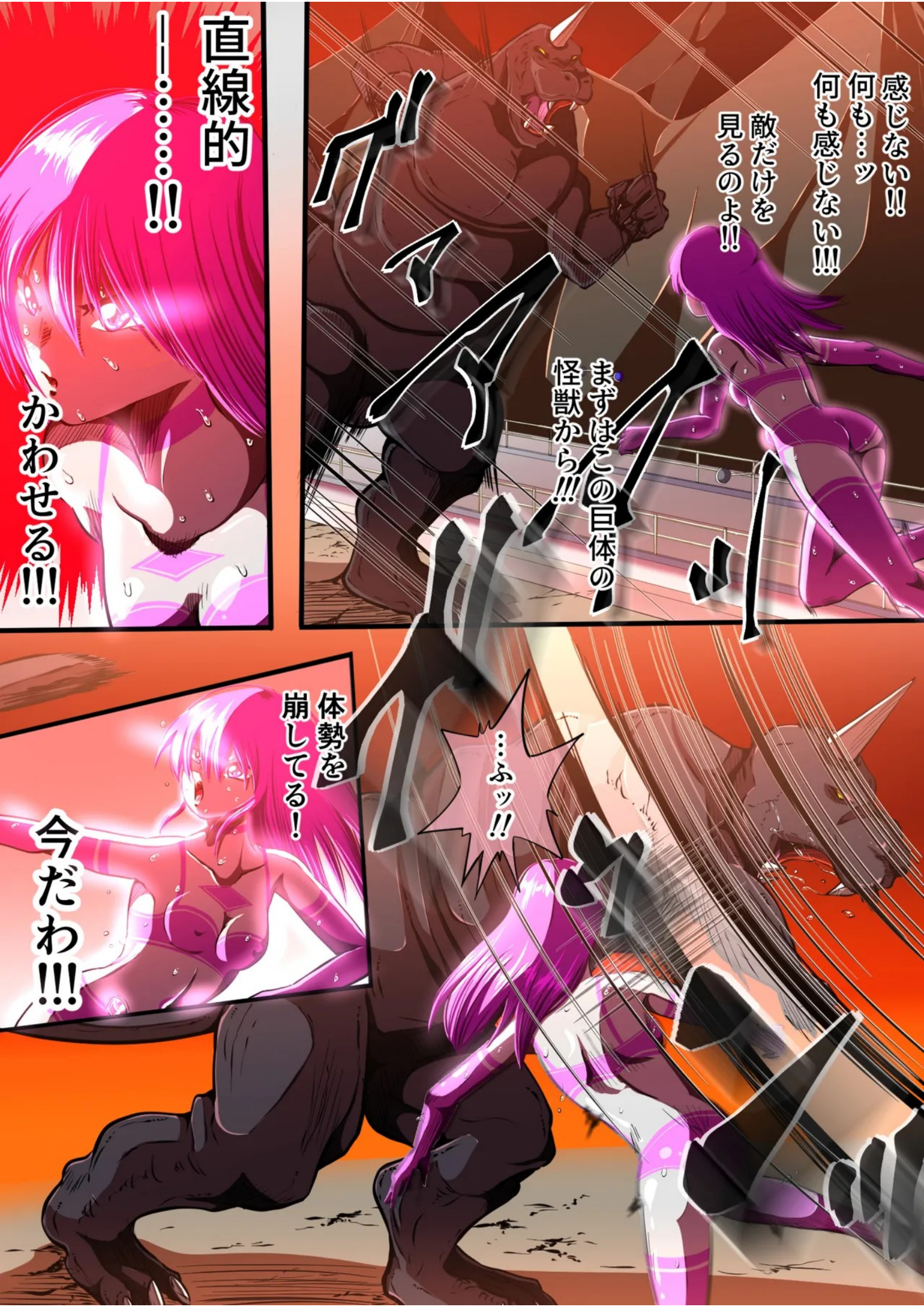
ほどほどの2匹を用意してやった
ズゥゥ
ズゥン…
ズウゥン……
まずはコイツ等に遊んでもらえ

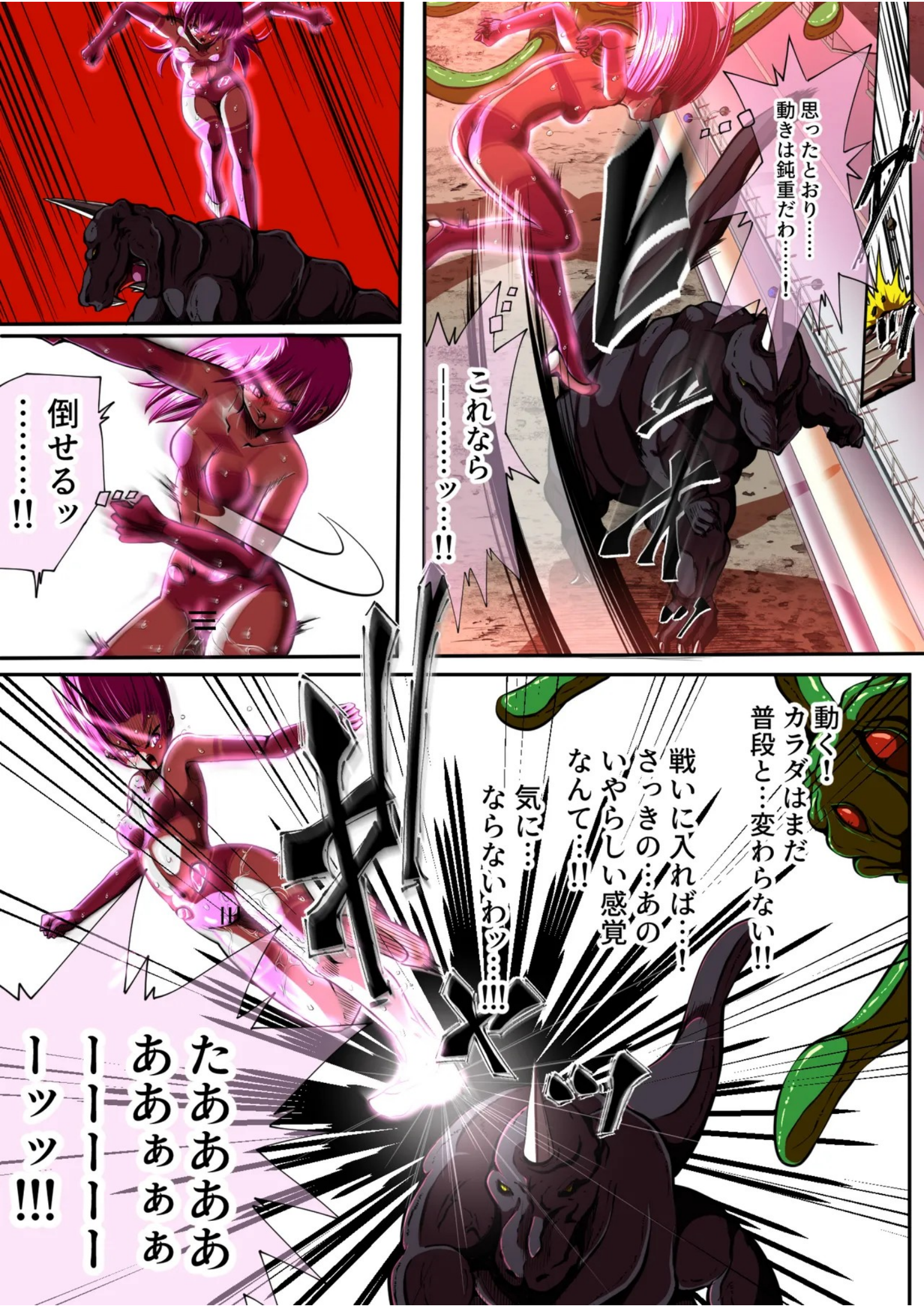

戦いがはじまれば思い知るだろう…
ズゥン
おまえには万に一つの勝機もないことを…
ズゥン…
ヒュウウ…
せいぜい絶望するがいいぞ…クク…！

…いえ……
あの星人も必ず…現れるはず…!!

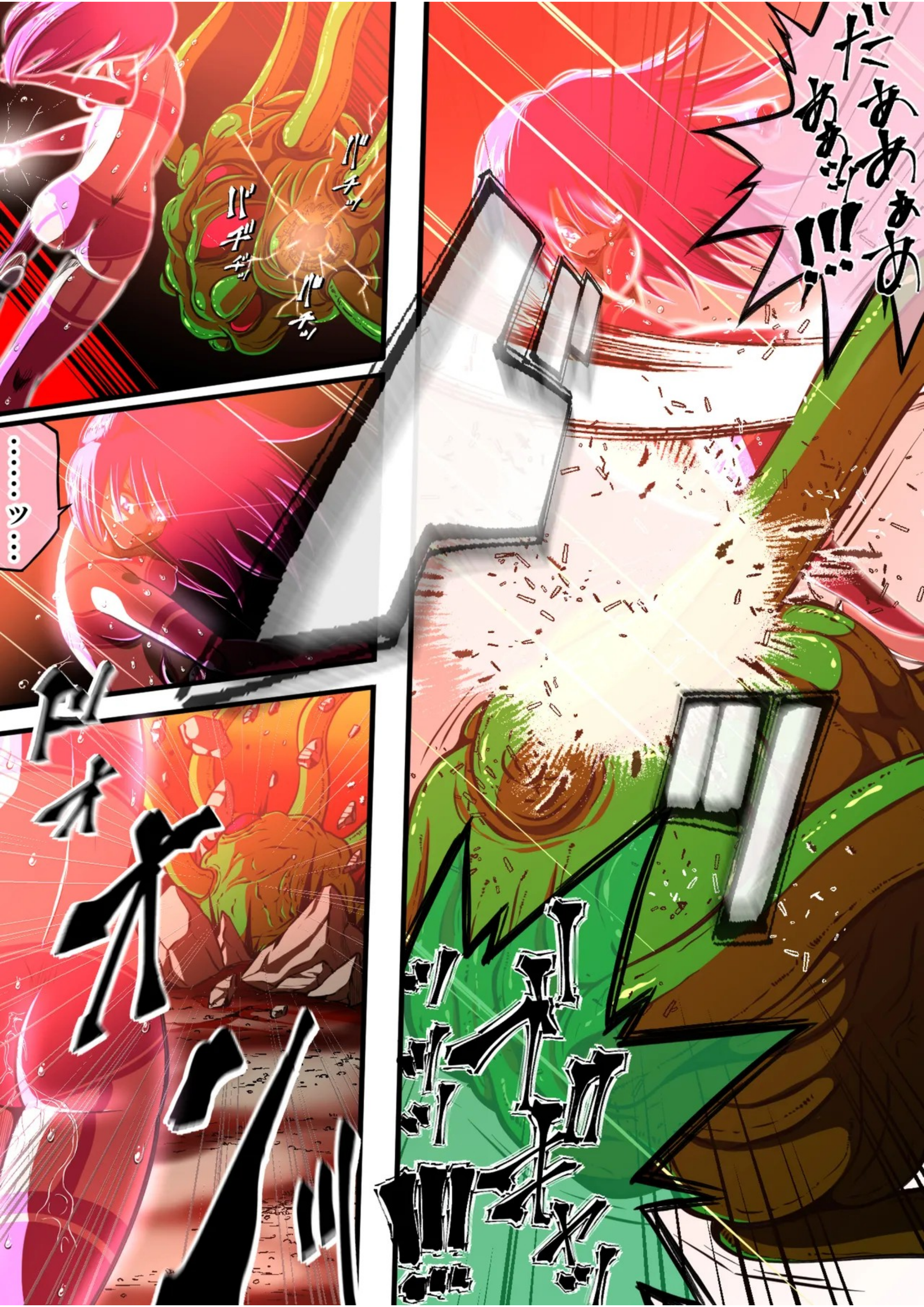
敵は…2匹……!!
この状況で数でも不利だなんて…

考えていても仕方ないわ…!!
とにかく短期決戦で…ッ!!
光…!
さっき話した通りよ…!!
ヴルルル…
ヴァァッ…
残りのエネルギーなんて考えない……!!
最初から全力でいくわ!!!

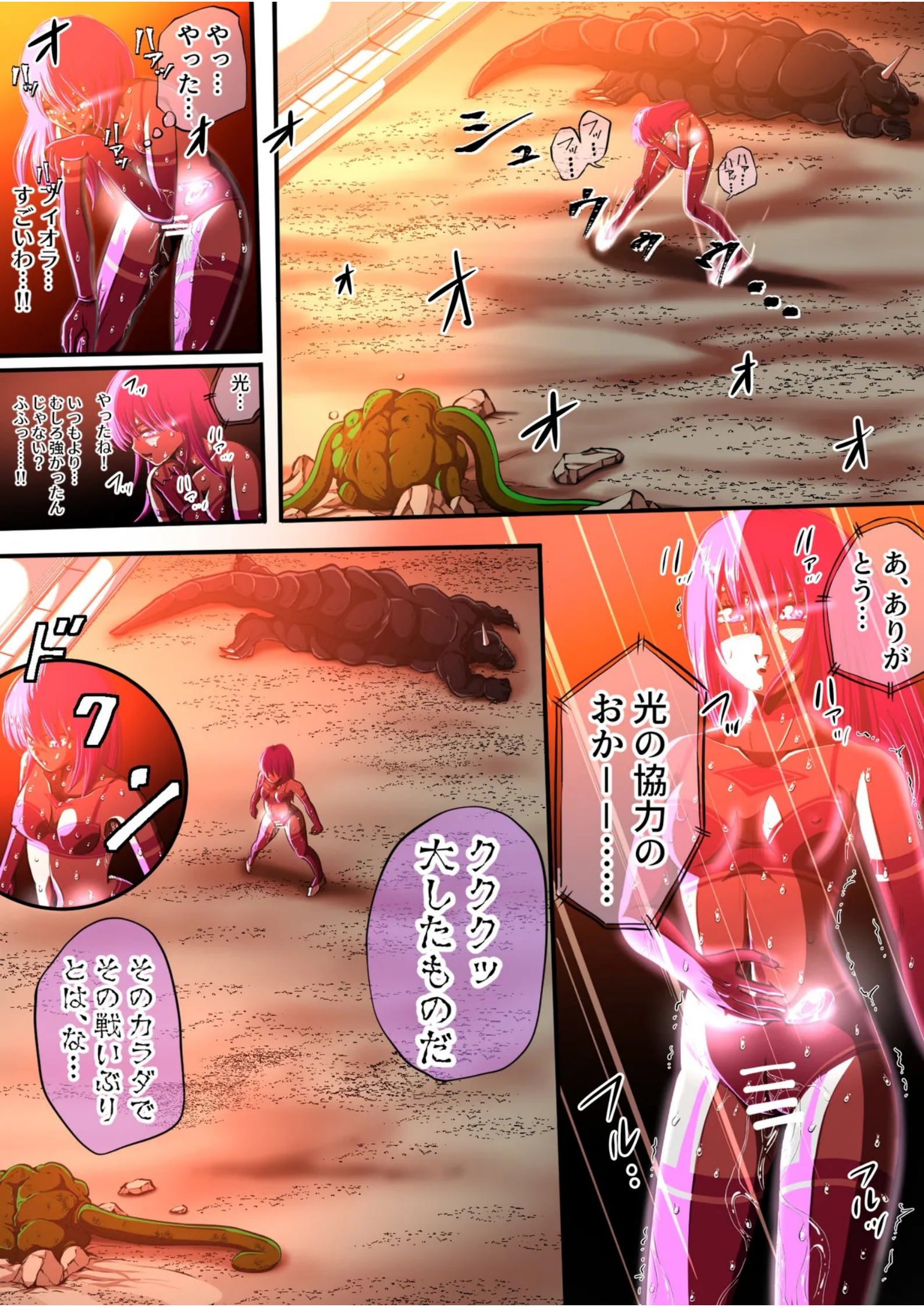

感じない!!
何も…ッ
何も感じない!!!
敵だけを
見るのよ!!
ガァァ
まずはこの巨体の
怪獣から!!!
直線的
――……!!
かわせる!!!
…ふッ!!
体勢を
崩してる!
今だわ!!!

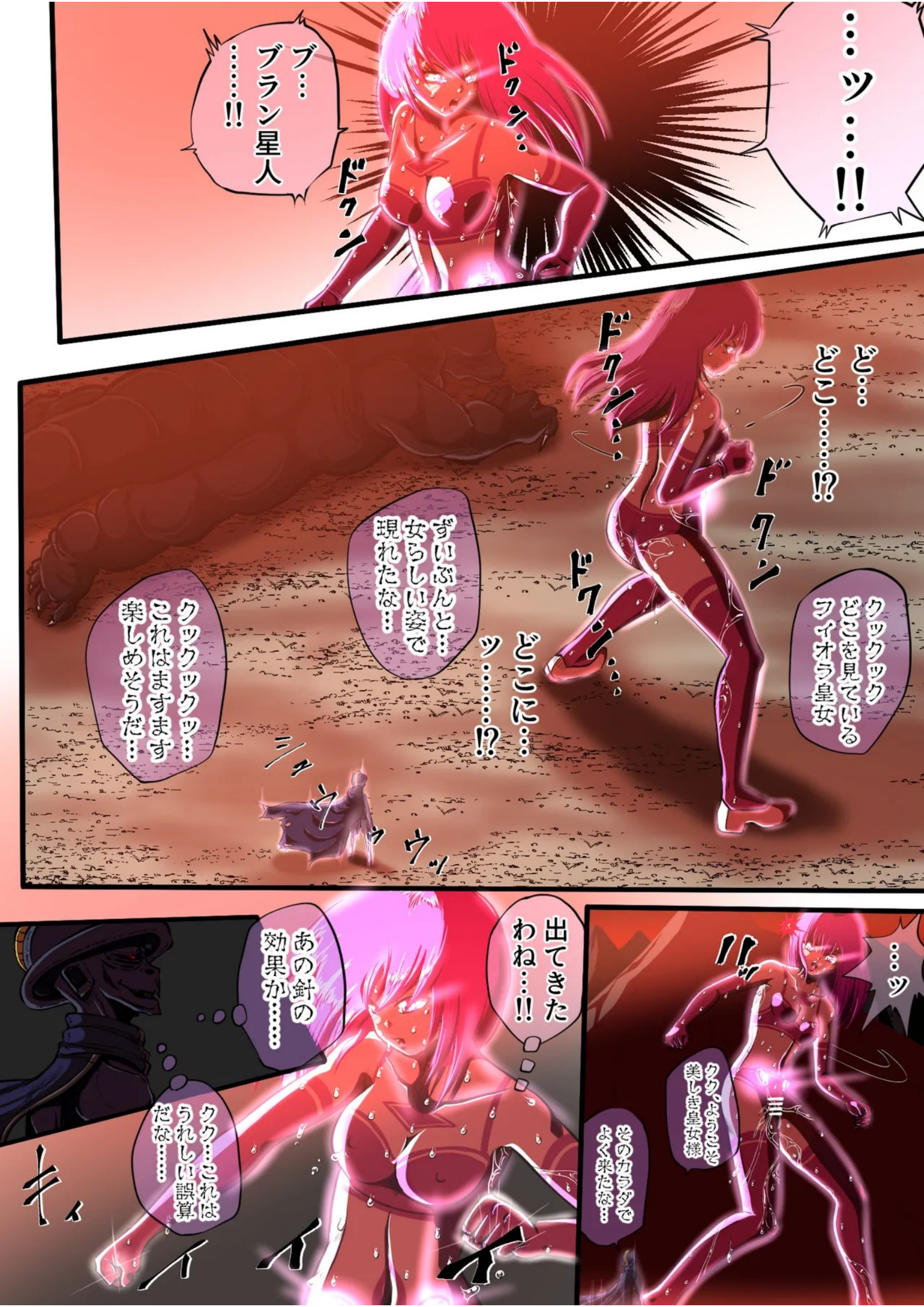

思ったとおり……
動きは鈍重だわ……！
これなら
――……ッ…!!
倒せるッ
……!!
動く！
カラダはまだ
普段と…変わらない!!
戦いに入れば…！
さっきの…あの
いやらしい感覚
なんて…!!!
気に…
ならないわッ…!!!
たあああああーーーーーーッッ!!!

!!
はぁあぁっ!!
次は…ッ
こっちね……!!
これで……
一気にッ……
決める!!!

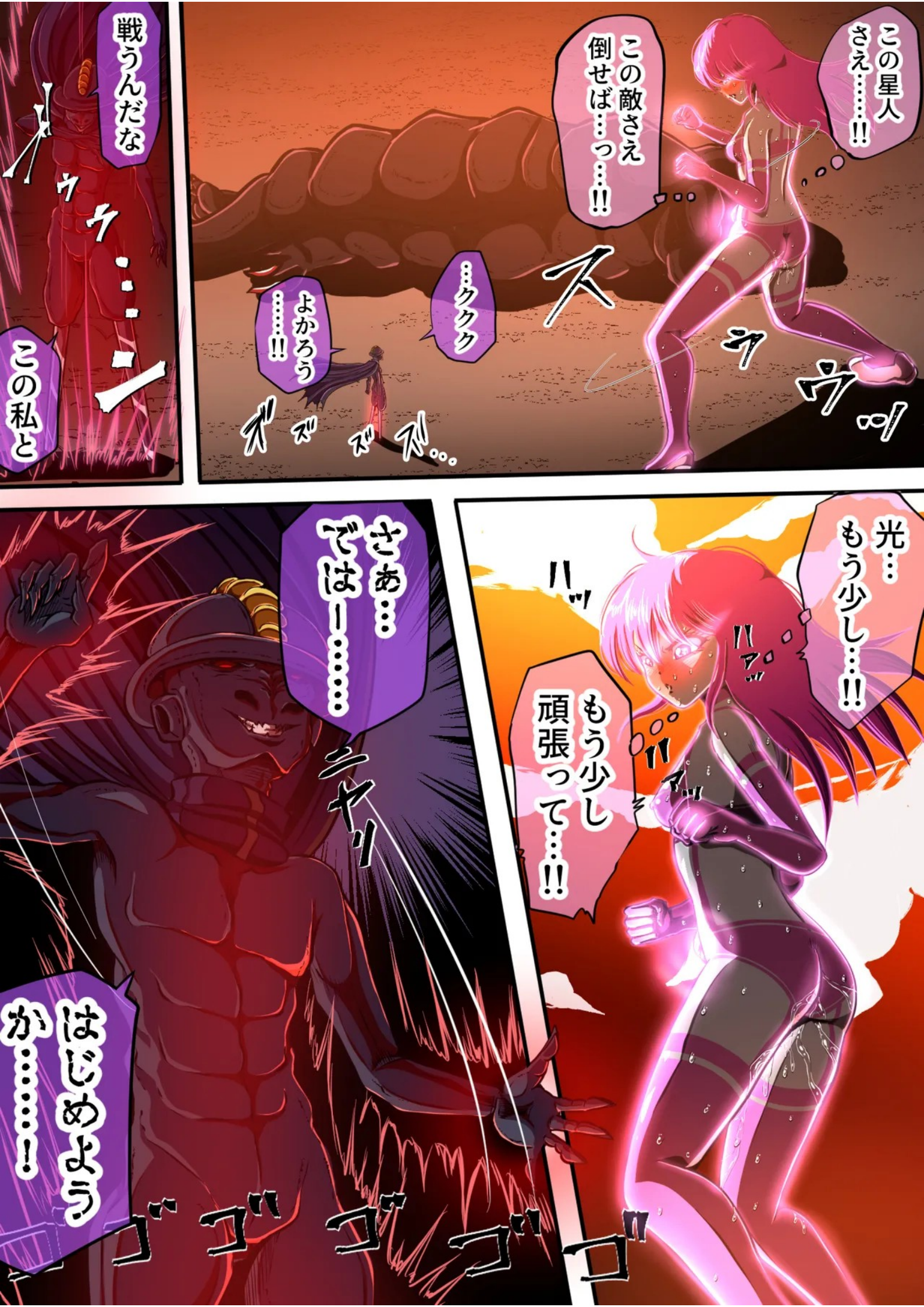


だああぁああぁぁ!!!
バチッ
バヂヂッ
バチッ
……ッ……
ドゴォッ!!!
ドォオンッ


やっ…
やった…
ハアッ
ハアッ
オ
ハアッ
ハアッ
イオラ…
すごいわ…!!
光…
やったね！
いつもより…
むしろ強かったん
じゃない？
ふふっ……!!
フッ…
フッ…
ハア…
ハア…
シュ
ウ
オ
あ、ありが
とう…
ハアッ
ハアッ
フッ
光の協力の
おかーー……
フル…
フル…
ドン
ククク
大したものだ
そのカラダで
その戦いぶり
とは、な…


…ッ…!!
ドクン…
ドクン
ブ…
ブラン星人
……!!
ど…
どこ……!?
ドクン…
ドクン
ドクン…
クックック
どこを見ている
フィオラ皇女
どこに…
ッ……!?
ずいぶんと…
女らしい姿で
現れたな…
クックックッ…
これはますます
楽しめそうだ…
シュウウウッ
…ッ
ククク、ようこそ
美しき皇女様
そのカラダで
よく来たな…
出てきた
わね…!!
あの針の
効果か……
ククク…これは
うれしい誤算
だな……
キィィ

ククク…バカな女だ
本当にやって来るとはな
この星の生物など――……捨て置けばいいものを……
宇宙警備隊隊員の矜持というものかな？それとも皇女としての誇りか？
…
言ったはずよ……
イルッ…
ニヤ
ニヤ
貴様…は……ッ…
光を執拗に傷つけた貴様だけは――……
ニヤ
ニヤ…
…クク…
絶対に……――
許さない…ッ……!!


この星人さえ……!!
この敵さえ倒せば…っ…!!
スゥ
ウ…!
…ククク
よかろう……!!
ズズズズ…
戦うんだな
ウ・・・ン
この私と
光…もう少し…!!
ハッ
ハァ
もう少し頑張って…!!
ハァ
さあ…ではー……
ニヤリ
はじめようか……!
ゴゴゴゴゴゴ

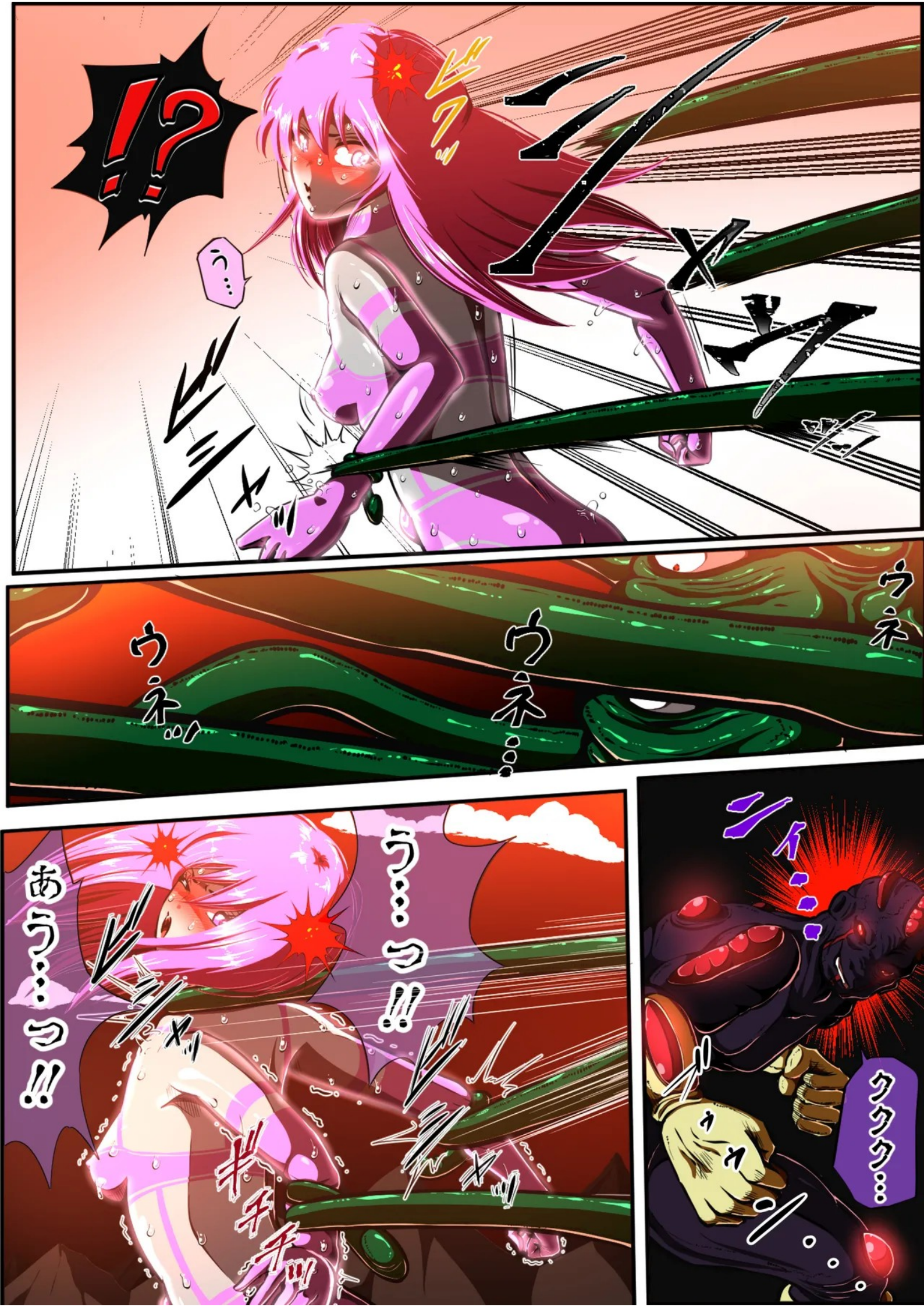
コォオオオオ
オオオオ……!!
グ…ウゥウ……
アアアァァァ
アアアアア……!!
……ッ…
な…なんて
威圧感…!
ま、まだ
巨大化もして
いないのに…っ
ウォオオォオ
オオオッッ!!!
か…体が
……!!
変わって
いく…!?

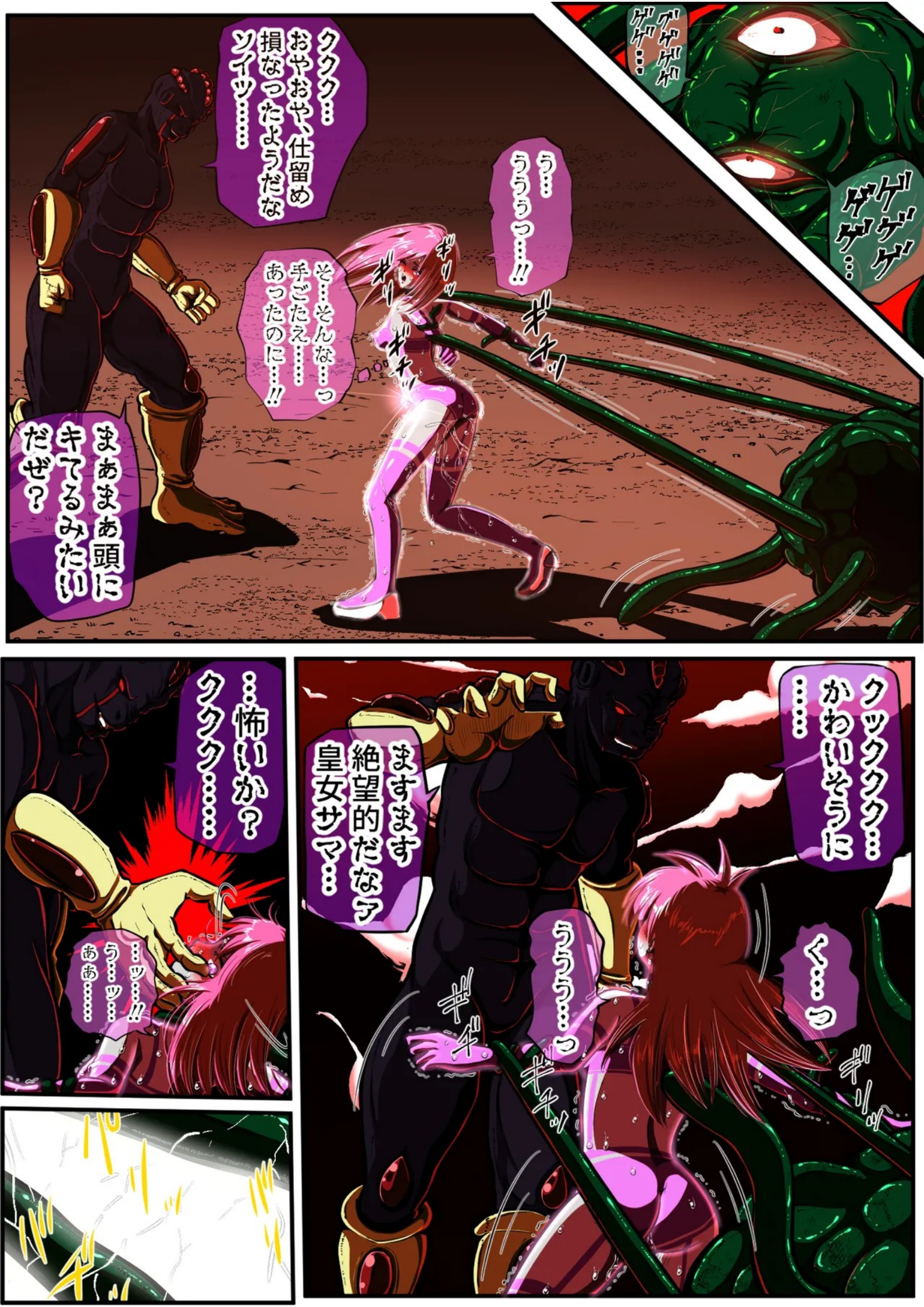
◆かばいあい、想いあう…『ふたり』…
◆しかし敵は容赦なく…光とフィオラを追い詰める……!!
◆傷つきながらも懸命に戦う、フィオラと光の運命は……!?
フィオラ クライシスIV
～絶望のバトル!! 堕ちた皇女…!?～

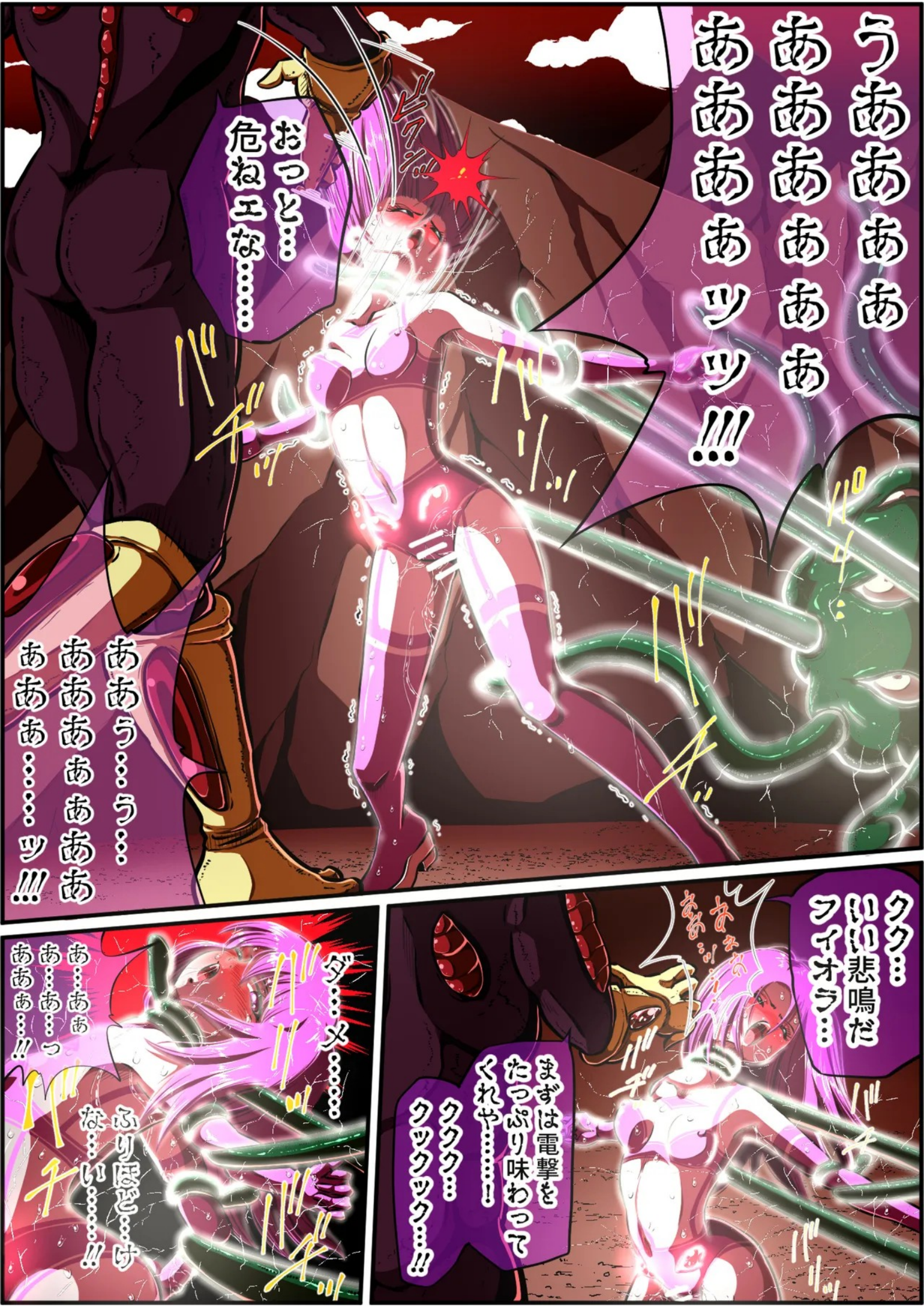
そ…そんなっ……!!
あ…ああ…ぁ…
ウウ
ま…まるで別……
まったく違う星人の
姿のように……!!
う…ううっ…!
ああ…ぁっ……!
く…っ
フルル
フルッ
……フウウ…
……ククク…
ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ

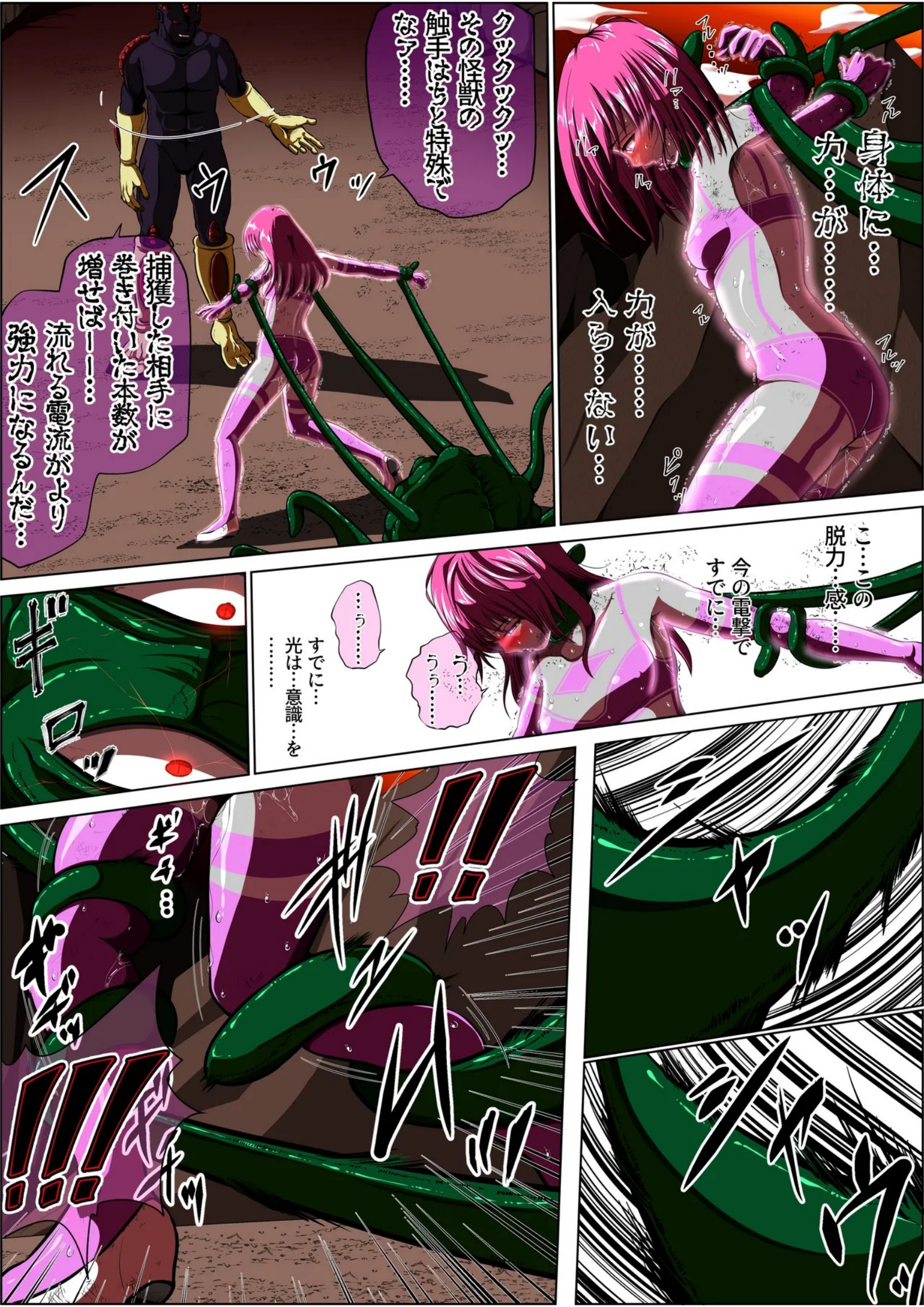
…ククク 恐いか？
……ッ…
ン…？ ククク…
昨日言った通りだがよ…
今日、ここで……
キサマには死んでもらう……！
……
……ッ…！
ビクッ
せいぜい あらがえ……！
ガシッ
オレを楽しませろ……!!
女アッ!!

ムォンッ!!
ふッ……!!
大振りよ…ッ!!
そんな攻撃当たるわけないわ…ッ!!
反撃……ッ!!!


!?
ビク
ン
ビミ
ッ
う…
ウネ
ウネ…
ウネ…
ウネ
シィ…
クククク…
う…っ!!
ビミ
ッ
ビミ
ッ
チチッ!!
あう…っ!!


ゲゲゲゲゲ…
グゲゲゲゲ…
ククク…おやおや、仕留め損なったようだなソイツ……
う…うううっ…!!
ギリッ
ギリッ
ギチッ
そ…そんな…っ手ごたえ……あったのに…!!
まぁまぁ頭にキてるみたいだぜ?
クククク…かわいそうに……
ますます絶望的だなア皇女サマ…
く…っ
ううう…っ
ギリッ
ギチッ
…怖いか?ククク……
…ッ…!!
う…ッ…
あぁ……

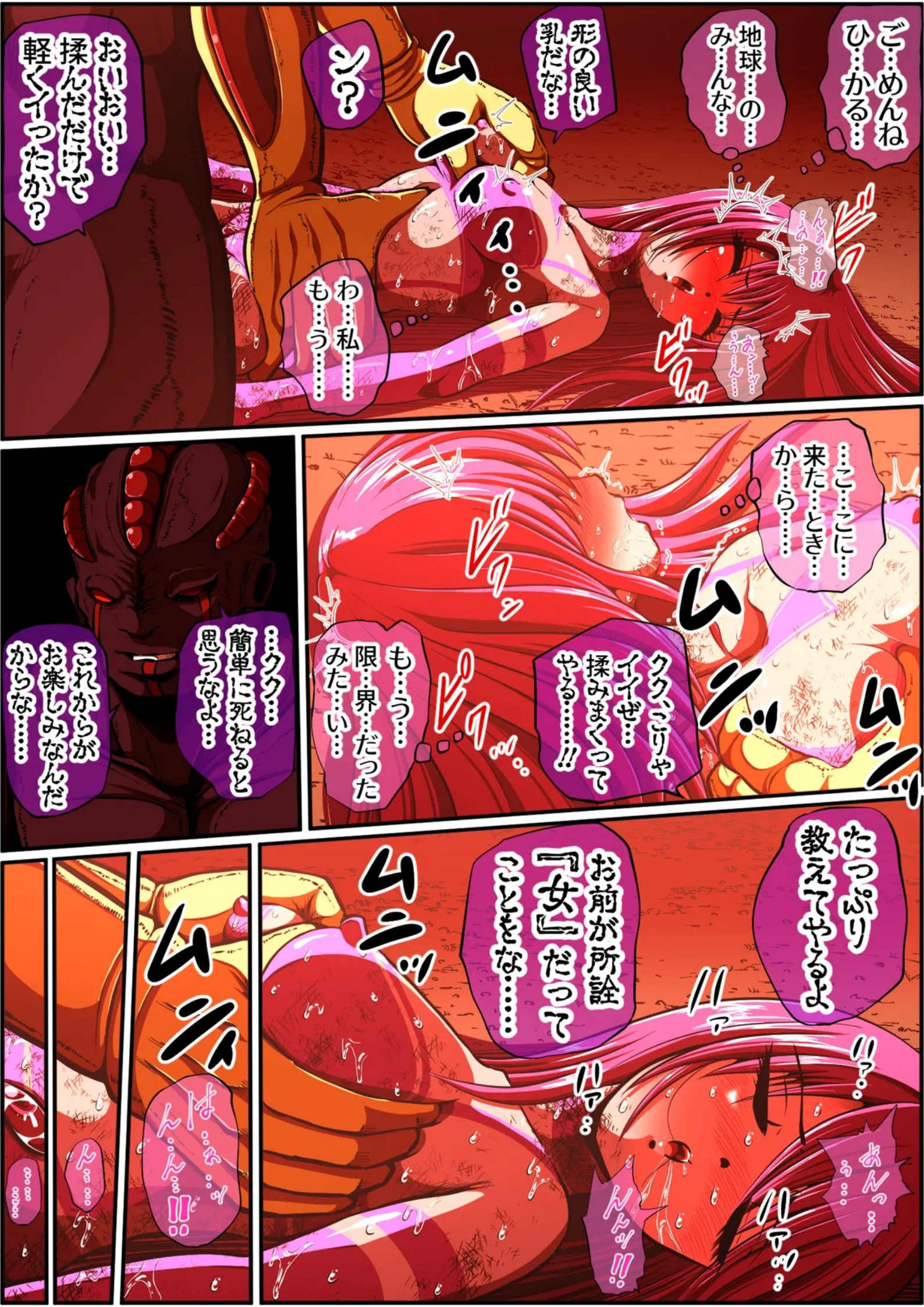

うあああああああああああああッッ!!!
ビクン…
おっと…危ねエな……
バギ
あう…う…う…あああああああああ……ッ!!!
ククク…いい悲鳴だフィオラ…
なぁぁぁ
まずは電撃をたっぷり味わってくれや……!!
ククク…クックック…!!
ダ…メ……
ふりほど…けな……い……!!
チ
あ…あぁ…あ…あ…っ…あぁぁ…!!

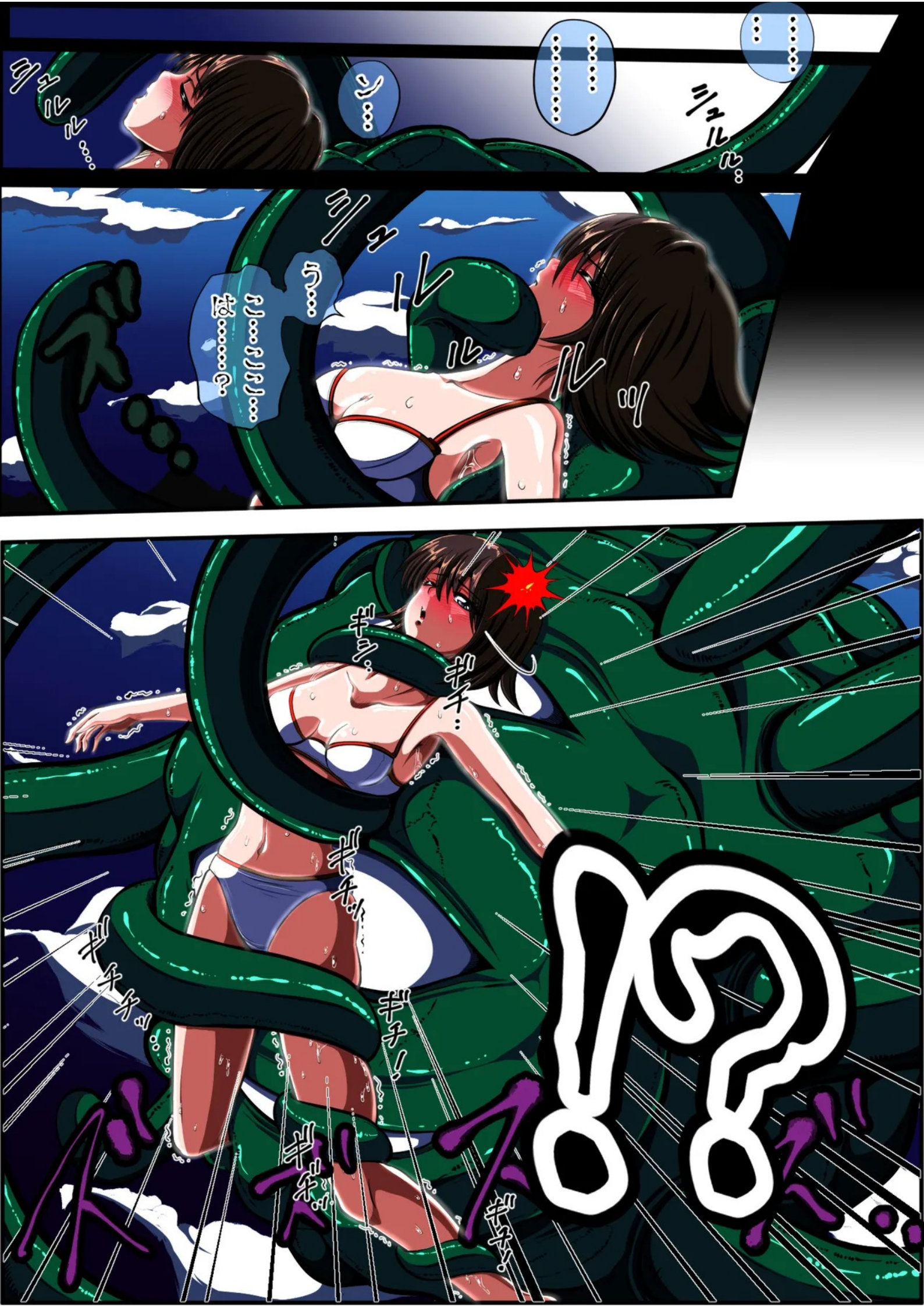

身体に…
力…が……
力が……
入ら…ない…
ピク…
ハァ
ハァ
フル…
フル
フルッ
クックックッ…
その怪獣の
触手はちと特殊でなア……
ウッ
捕獲した相手に
巻き付いた本数が
増せばー…
流れる電流がより
強力になるんだ…
ギロッ
こ…この
脱力…感……
今の電撃で
すでに…
う…
うう……
…う……
すでに…
光は…意識…を
……
ギロッ
ギロッ
!!
!!
!!!
ヤ
ヤ
ヤ
ヤ
ヤ

う…ぁ…
あぁぁッ…!!
バリバリ
バチィ
あぁぁぁぁぁ…!!
ぐうぅぅッ…!!!
さ…さっきよりも…
さらに…!!!
バリバリ
バチィ
バリバリ
バチィ
数段強い電流が…!!!
うぁぁぁぁぁぁぁぁぁーーーッッ!!!
5本…か…
こりゃなかなかキツいぜ…?
バチィ
バリバリ
バチィ
あ…ぎ…ッ…!!
ぐッ…!!
うッ…!!
バチィ
バリバリ
バチィ
あぁぁぁぁぁぁッ…!!
う…あ…ぁ
あ…あっ…
うぁ…ぁ…ぁ…

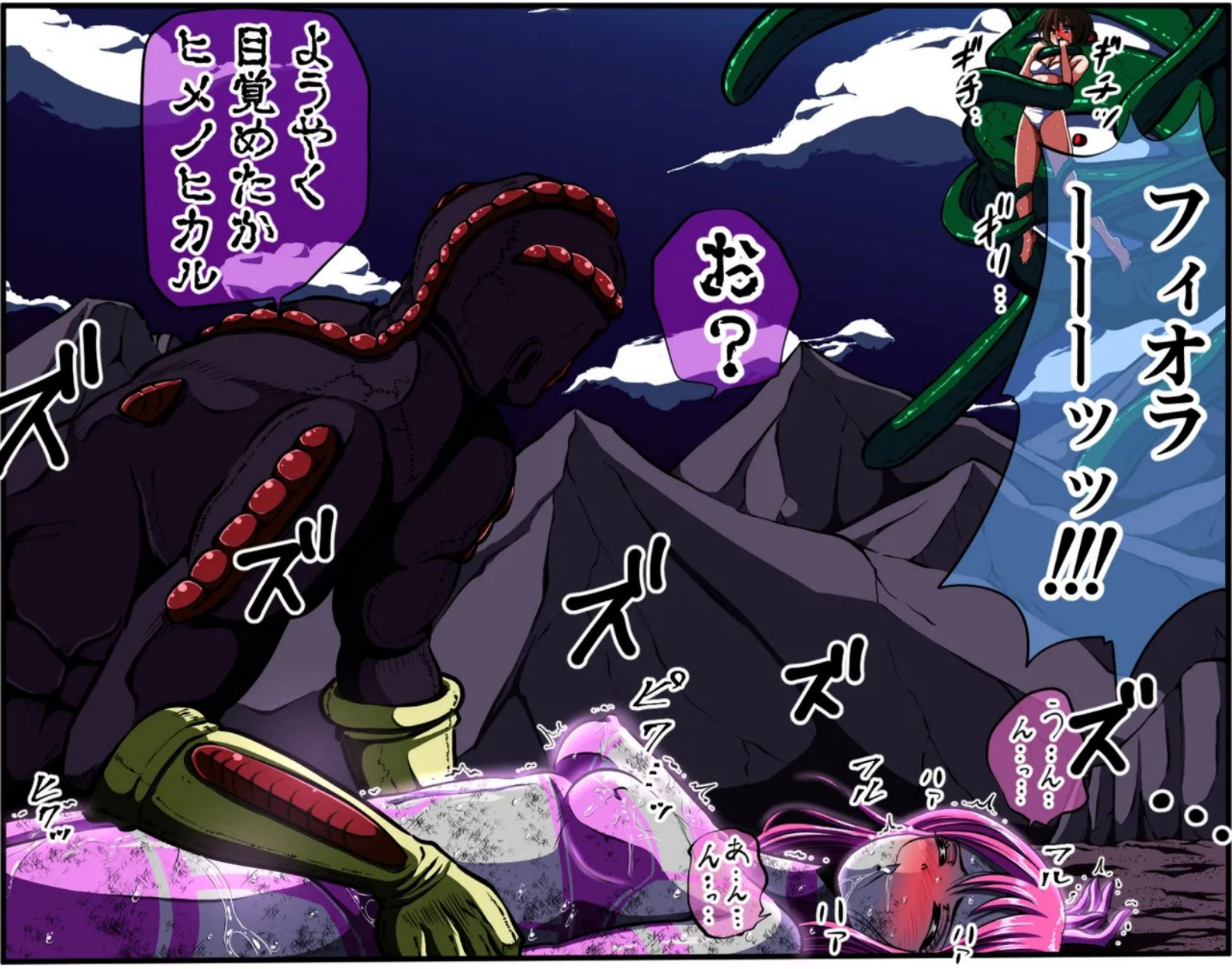
ククク…
何だァ…？
もう抵抗も出来ねエのかァ…？
う…
あ…あぁ…
あぁ…う…
う…う…
ケッ、つまらねエな…
オイ、そろそろはなしてやれ
ズ
ズ
ズ
ズ
さあて……
次は
オレの番だ…!!!

ククク…
やっぱお前
いい女だな…
ズズズ…
顔も…
カラダもよ
…ククク…
最高だぜ…
たまらねえ…!!
プス…
プス
プス
プス
あ…あ…
う…
う…うう…
ん…っ…
ただ殺すなんて
もったいなさすぎ
だぜ……
ニヤ…
ニヤ
じっくり…
楽しませて
もらうか…
ニヤ
ククク…
ククククッ…
ウ
ウ…
…力尽きたか
フィオラ皇女…
…ククク……
ンン?
この星の奴等を
守るんじゃなかった
のかァ?
クククッ……!!
ミシッ
ミシ
う…うう…
あ…う…
ン…!!
ク…
ハァ…
ハァ
ハァ…
ハァ…
う……っ…
…く……


ご…めんね
ひ…かる…
地球…の…
み…んな…
形の良い
乳だな…
ムニィィ…
ン？
おいおい…
揉んだだけで
軽くイったか？
わ…私……
も…う……
ビクッ
ビクン
ビクッ
ビクン
…こ…ここに…
来た…とき…
か…ら……
ムニ…
ムニ…
クク、こりゃ
イイぜ…
揉みまくって
やる……!!
も…う…
限…界…だった
みた…い…
…クク…
簡単に死ねると
思うなよ…
これからが
お楽しみなんだ
からな……
たっぷり
教えてやるよ
ムニッ
お前が所詮
『女』だって
ことをな……
ハァ
ハァ
ハァ…
ハァ…
んっ…
んんっ…!!
はぁ…ぁ…
ん…ん…!!
ん…
…


ニュルル…
ン…
……
……
ニュルル。
ニュルル
ぅ…
こ…ここは…？
ニュルル
ギシ…
ギチ…
ギチ!!
ギチチ!!
ギチ!
ギチ!!
ギチ!

う…っく……
フィ……フィオ…ラ……？
ギリ…
ギチ…
ウネ
ウネ
ウネ
ウネ
ハッ
!!
クク…ッ…またイった…か……ククク…
もう欲しくてたまらなそうじゃねエか…
ン？自分から言ってみろよヒメさまァ…!!
ジュル…
ムチュ…
ビクッ!!
ビクーッ!!
ギチ…
フィ…ギチ!!


フィオラ
ーーーッッ!!!
ギチッ…
ギリ…
お？
ようやく
目覚めたか
ヒメノヒカル
ズ
ズ
ズ
ピクッ
ピクッ
ズ…
うぅん…
んっ…
あ…ん…
んっ…

なに、フィオラが
失神したらよ
ニヤ…
おまえら
分離しちまった
みたいだぜ？
クククク…

せっかくの機会
だしな……
特等席で
見せてやるよ…

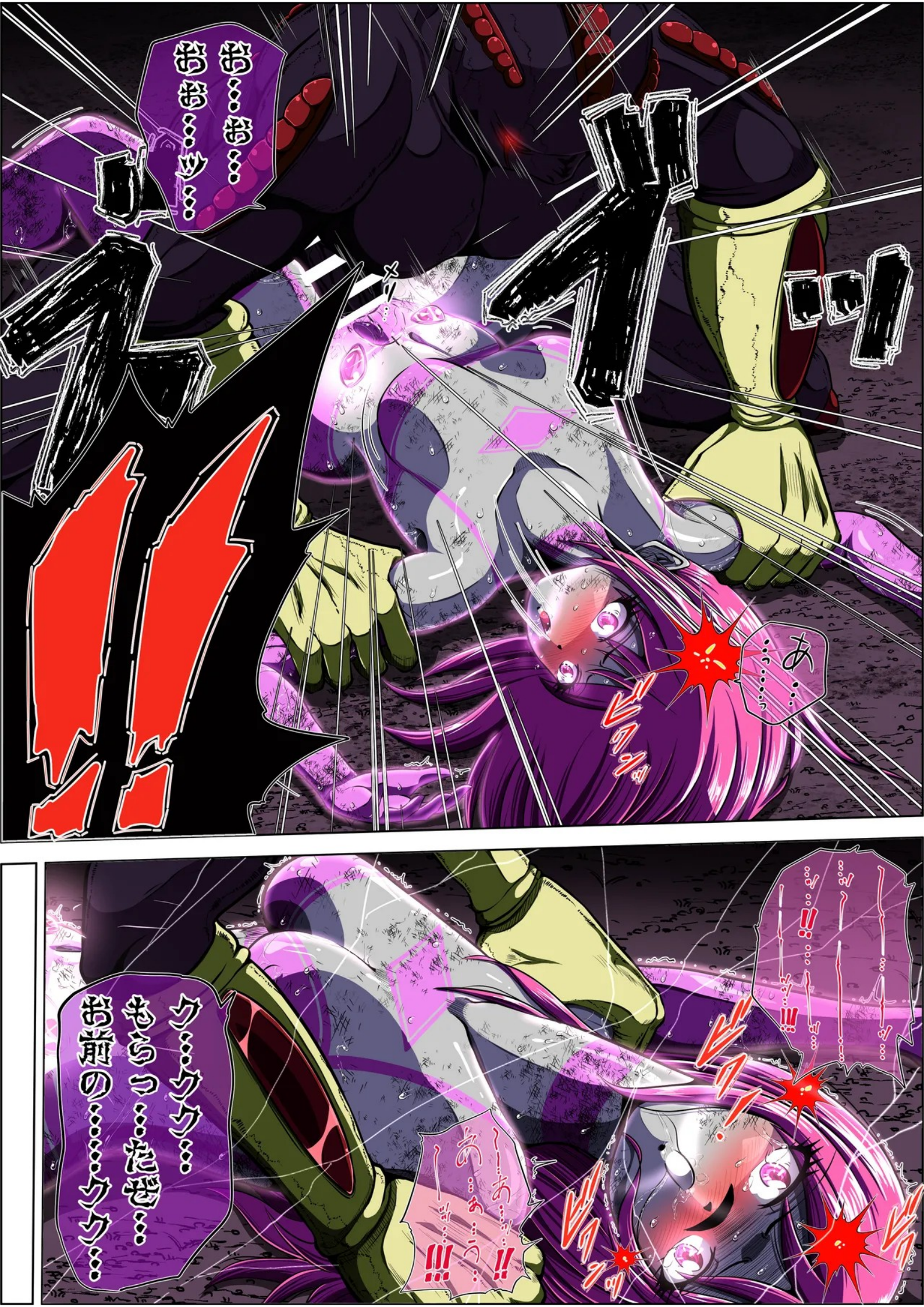
この皇女様(ヒメ)が……！！
メチャクチャにブチ犯されるところを、な…
ククククク…
ギチ
ギチチ…
ギリ…
ギリ…

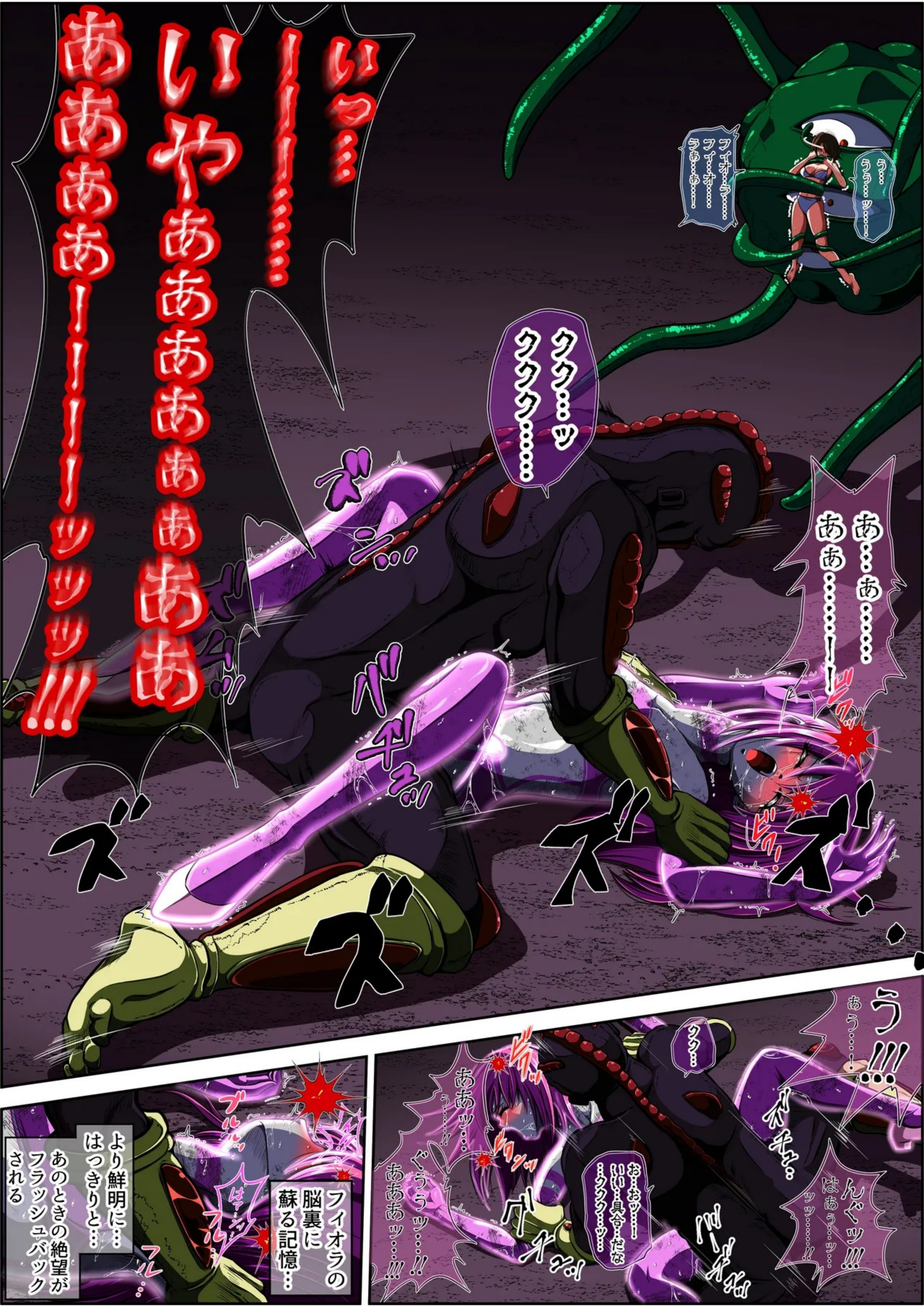
…な…なに……
なに…を…言ってる…の…？
ドクン…
ドクン…
ドクン…

…やめて…！
…やめてっ…!!
ククク…近くで見るとよりイイねェ…
もうたまんねぇぜ～～～…！
お願い…!!
やめてッ……!!!

ククク…ッ
ついに…
ズ
ビキッ
ズ
ズ
ついに来たぜ
このときが……！
フル
フル…
フィオラ様ア
ー……
ピク…
たっぷり
楽しもうぜ…
ニAィ…
お前が
死ぬ前に
な…！
ピク…
フル…
…う…
フル…
う…
う…
フル…
う…あぁ…
あ…あぁ…

ダメッ……!!
やめてぇッッ!!!
ピク…
フル…
フィオラ
立ってッ!!!
フル…
フィオラ起きてッ!!
フィオラーーーッッ!!!
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ククッ…
ムダだな
こいつは
もうー…
ニヤ…
お前の知ってる
フィオラ皇女じゃ
ねぇ……
こいつ
はー…
花弁の
ズズズ…
「女」だ
イイ声でよがってるだけの……な…


お…お…
おお…ッ…
あ…
ビクッ
ク…クク…
もっ…たぜ…
お前の……クク…
ビクッ!
ビクッ
ビクッ
!!…!!!
あ…あ…!!!

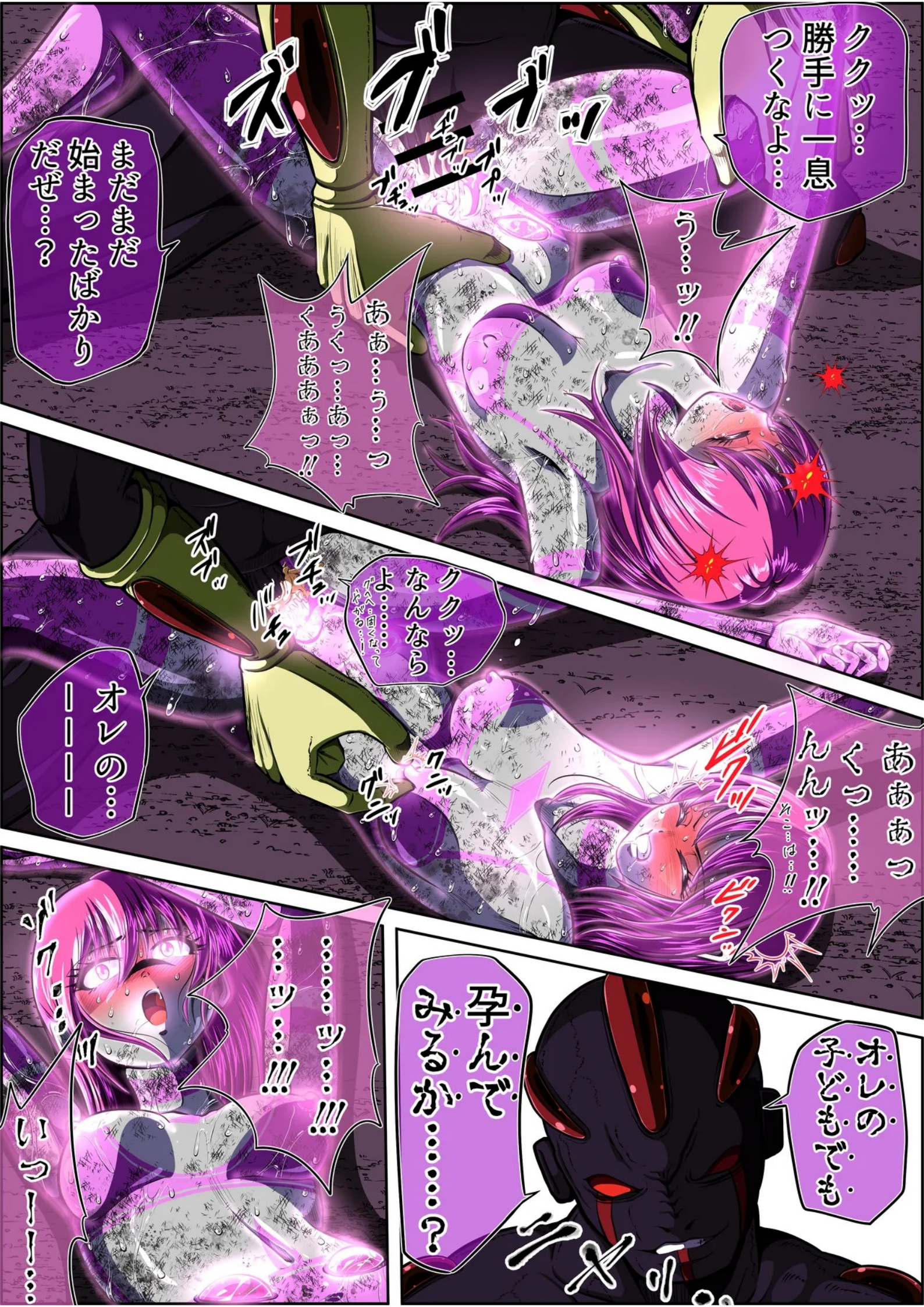


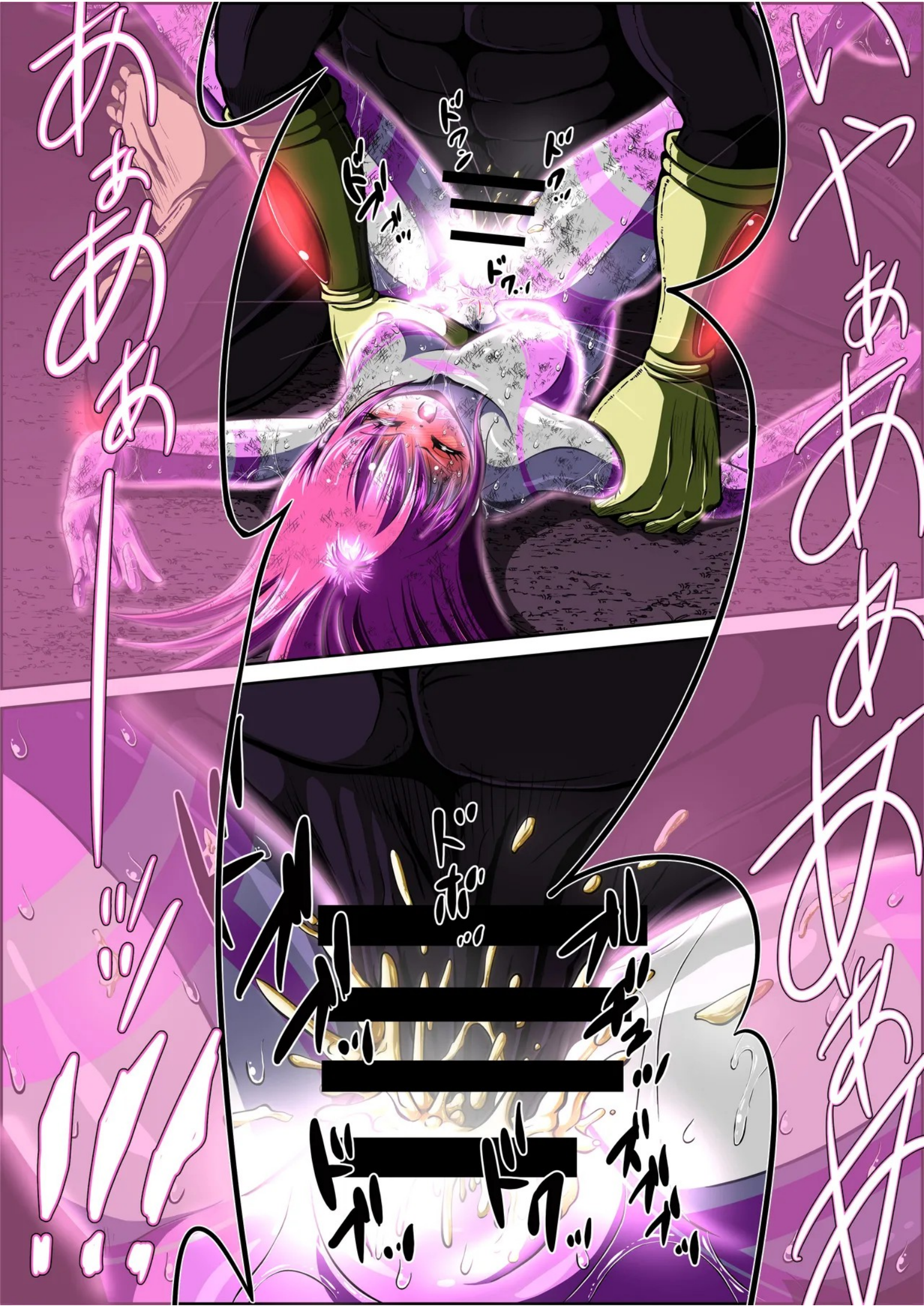
う…うう…ッ…!
フィオーラ……フィオ……ラぁ…ぁ…!
いっ…!!ーーー……!!
いやあああああああああ
ああああーーーーッッッ!!!
クク…ッ
ククク……
ズンッ
ズムッ
ベチュッ
ズ
ズ
ズ
あ…あ……
ああ……ーー!
ビクッ
ビクッ
う!!!…
あう……!
ククッ…
ズチュ…
んぐッ!!!
はあう…ッ…
ッ……!!
お…おッ……!
いい…具合…だな
…ククク…ッ…
ズチュ
グチュッ
ビクッ
ビクンッ
ああッ…
う……!!
ぐうぅッ……!!
ああッ…!!!
フィオラの
脳裏に
蘇る記憶…
ブルッ
はァッ
フル…
フル…
より鮮明に…
はっきりと…
あのときの絶望が
フラッシュバック
される

ククク…！
いいぞ…っ…
たっぷり…
膣内(なか)に……
射精(だ)して
やるぜ…!!
ズン…!!
ズズ…!!
ああああっ!!
いやあっ!!
ダメエッ!!
な…膣内(なか)…は…!!
フッ…
フウッ…
ズン…!!
ズズ…!!
やめ…て
やめ……て
ッ…!!
こ…こりゃ…
マジで…いいぜ…
締めつけて…
きやが…る…!
あはぁ…!!
あんッ!!
あんん!!
やめ…て…
ひど…い……!!
お願い……
もう…やめてッ!!

オ…オオッ…
で…射精るぞ…ッ
オオオオ…ッ…！
もう…
イっち…まう…
……!!
あああッ!!
イッ
だめッ！
だめだめッ!!
いく…ぞオオッ！
オオオォ…オオッッ!!!
あああっ…
ドム…
いやッ！
あああッ!!
やめ…て…
やめ…ッ…!!
受け…ろや
皇女…サマ…ッ!!
駄目ェェェ
ッッ!!

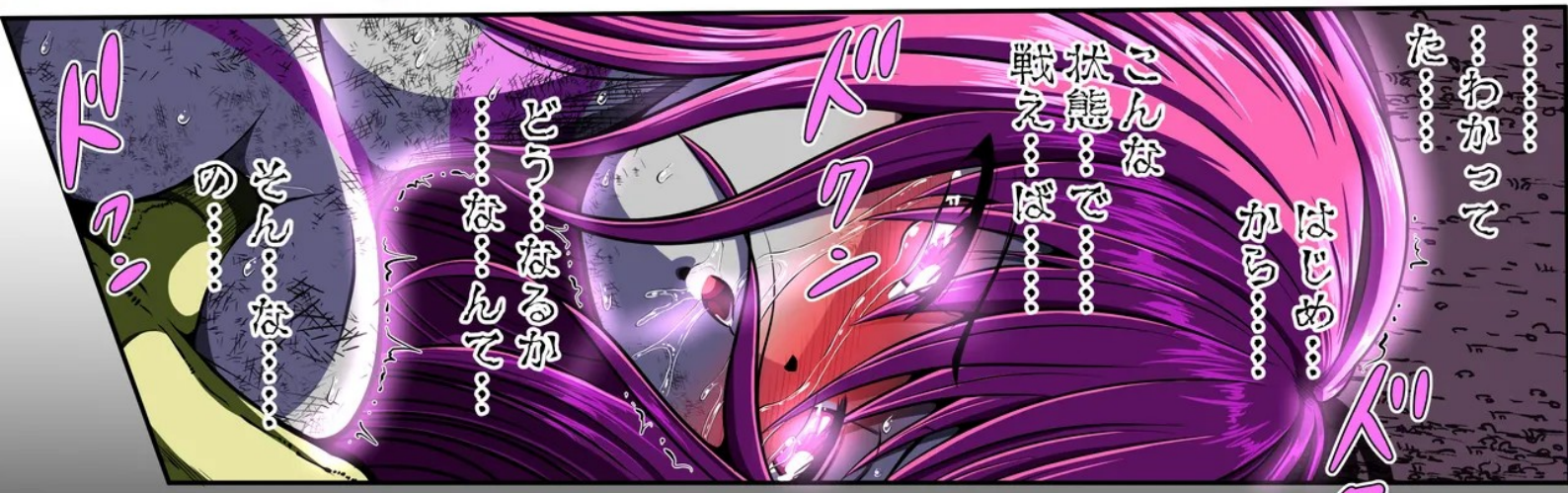
アァァァアアアアー
アァァアアァァー……ッ!!!!
ッ~~~~ッ!!!…ッ~~~~ッ!!!!
ドクッ
ドクッ
ドプッ
ビクッ
ビクンッ
あ…あ…あ……
あ……だ……出され……た……
なか……に……
ヘルヘル
ビクッ
ビクッ
あ…ン…
…ん……
く…はっ…
ああ…あ……

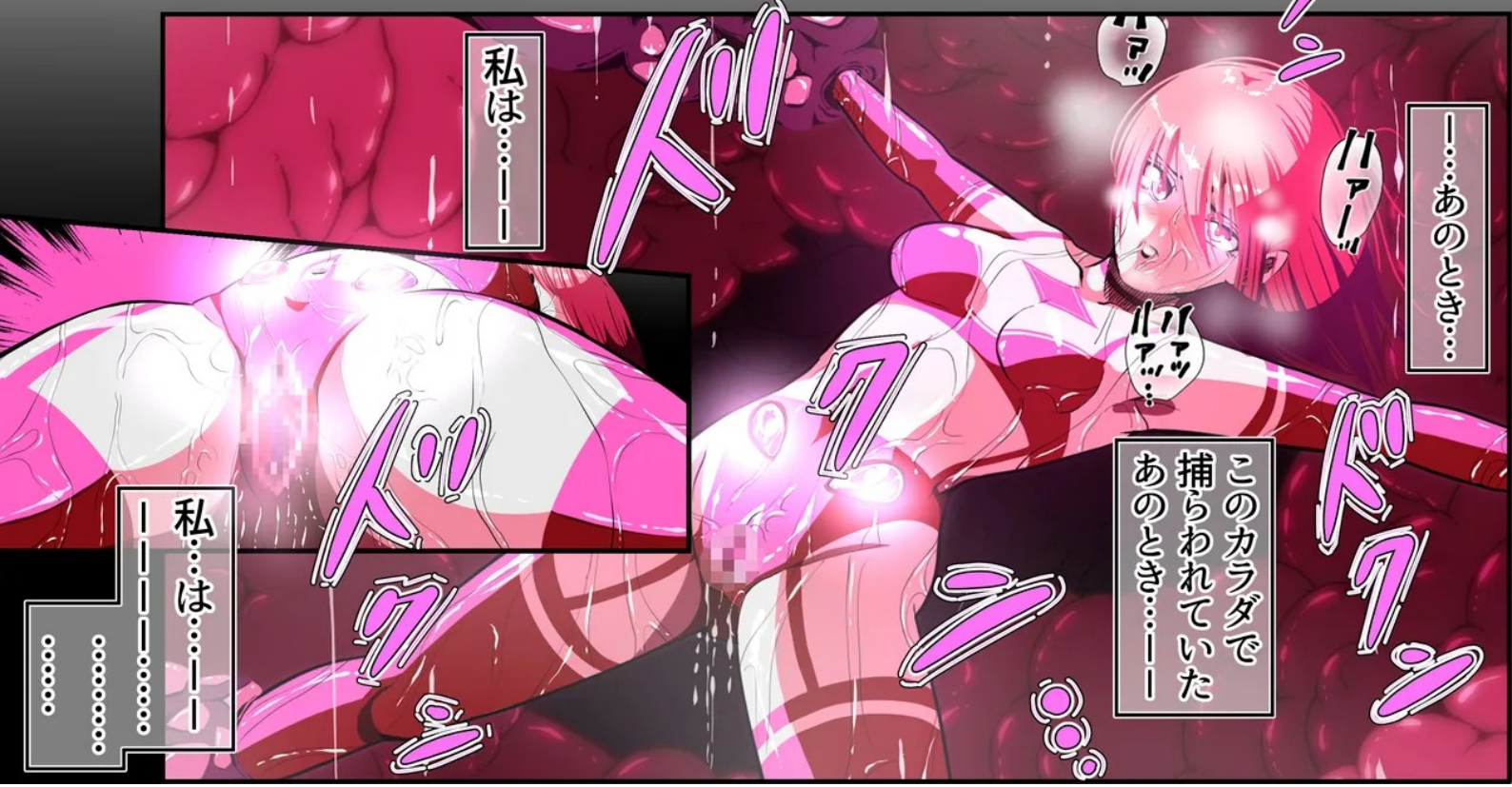

クッ…勝手に一息つくなよ…
ズグ…ズッ
ブギッ
ブヂッ
ブヂッ
う…ッ!!
ああ…う…っ
うくっ…あっ…
くあああっ!!
まだまだ始まったばかりだぜ…?
ブヂッ
ズブ
クッ…なんならよ……
(グヘヘ困くなってやがる…!)
ビクッ
ビュッ
ああっ
くっ……
んんッ…!!
そこ…は…!!
クニッ
グン
オレの……
孤独な孕ませ
孕んでみるか……?
オレの子どもでも
……ッ…!!!
……ッ…!!!
ビクッ…
いっ…!!


あぁあぁ
いやぁあぁ
ドン
ドク
ドク
ドボ
ドク
ドク

フィオラ クライシスIV
～絶望のバトル!! 堕ちた皇女…!?～

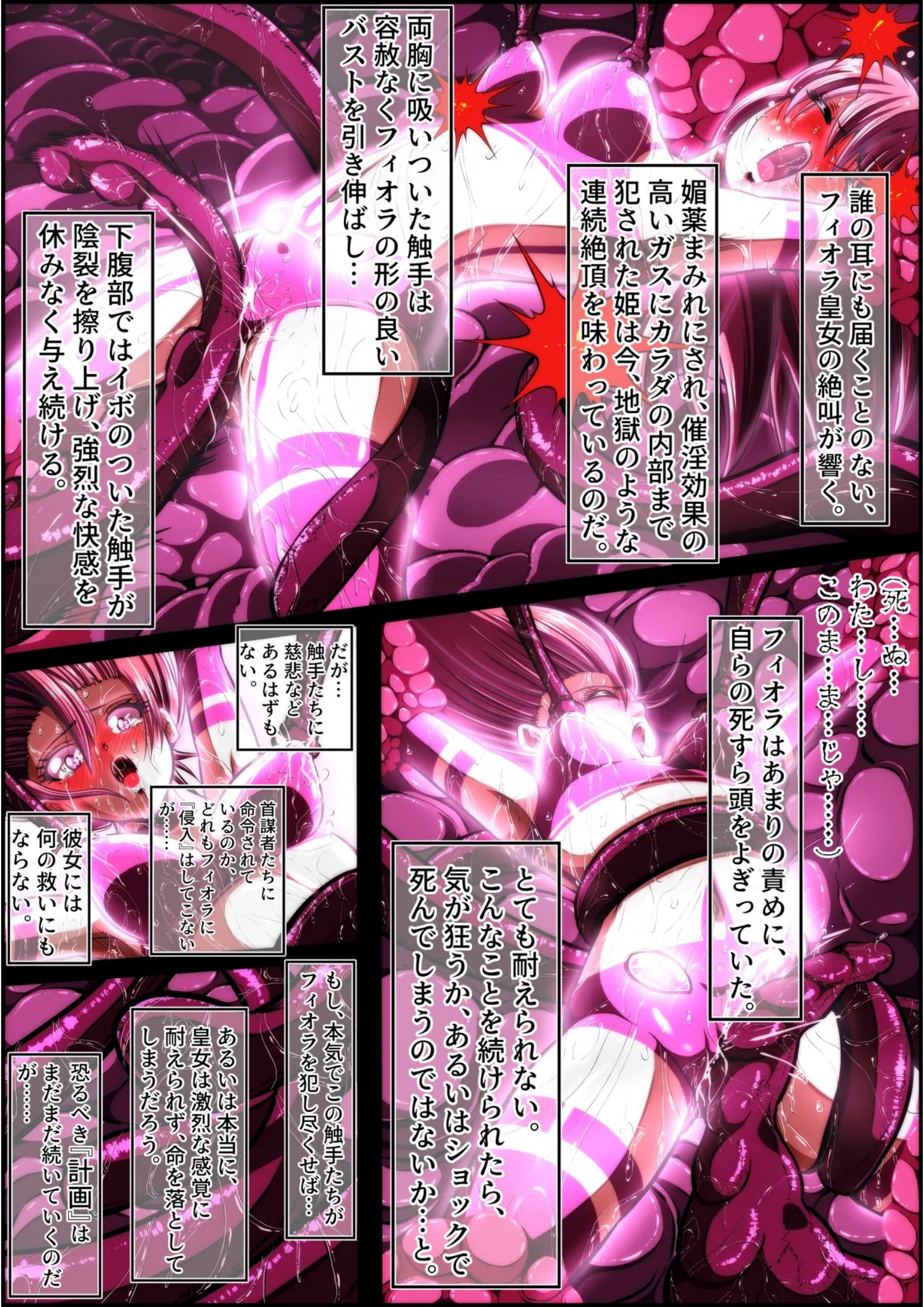
あぁ…あ…
おな…じ…だ…
ピク…
フル…
あの…ときと
ーーー……
ピクン…
フル…


……わかってた……
はじめ…から……
ビクン
こんな状態…で……戦え…ば……
ビクン
どう…なるか……な…んて…
そん…な……の……
ビクン


ーー…あのとき…
ハァ!!
ハァ!!
ハァッ!!
このカラダで捕らわれていたあのとき……ーー
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
私は……ーー
私…は……ーーーーーー……
……

四肢を肉壁に拘束された状態で
このおぞましい空間に監禁されてから、
一体どれくらい経ったのか…
私はかろうじて正気を保っていたが、
もはやカラダはまったくいうことを
聞かないほど昂らされていた…。
だが…不意に現れた気味の悪い触手を
目にした瞬間、何か絶望的な感覚が走った。
トロ…
ロォオ…
先端から垂れている、少し粘り気のある液体…
触手は、あろうことか私の晒された性器に
それを垂らそうとしているのだ…
なんとか逃れようと身をよじるが、
無駄だった……。
ピチョン
ピチョン
トロ…
一滴、二滴と陰部に滴り落ちた
その瞬間――……
私は、未だかつて
感じたことのない――!!!
強烈な快感を
叩きつけられた…

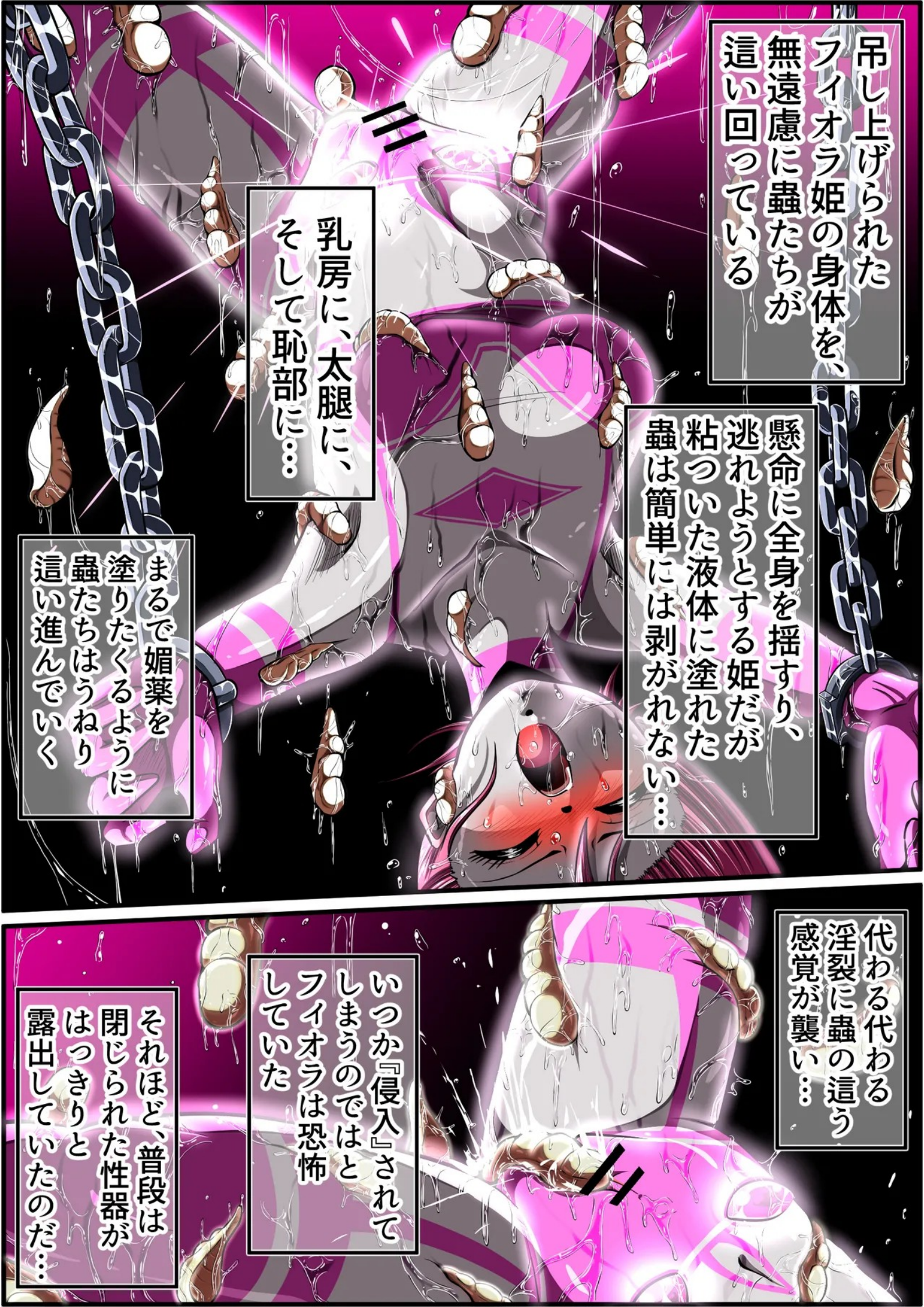
目の前がピンク色に染まる
!!!!!!
ビクン…!
ビクン…!
ビクン…!
ビクン…!
ビクン…!
一瞬だけど、気を失っていたのかもしれないーー
それほどの衝撃だった……
直後ーー…
喉が裂けるかと思うほど叫んだ
恐ろしいことに叫べば叫ぶほどーー……
ビクッ!
私に…より強い快感が走るのだった……

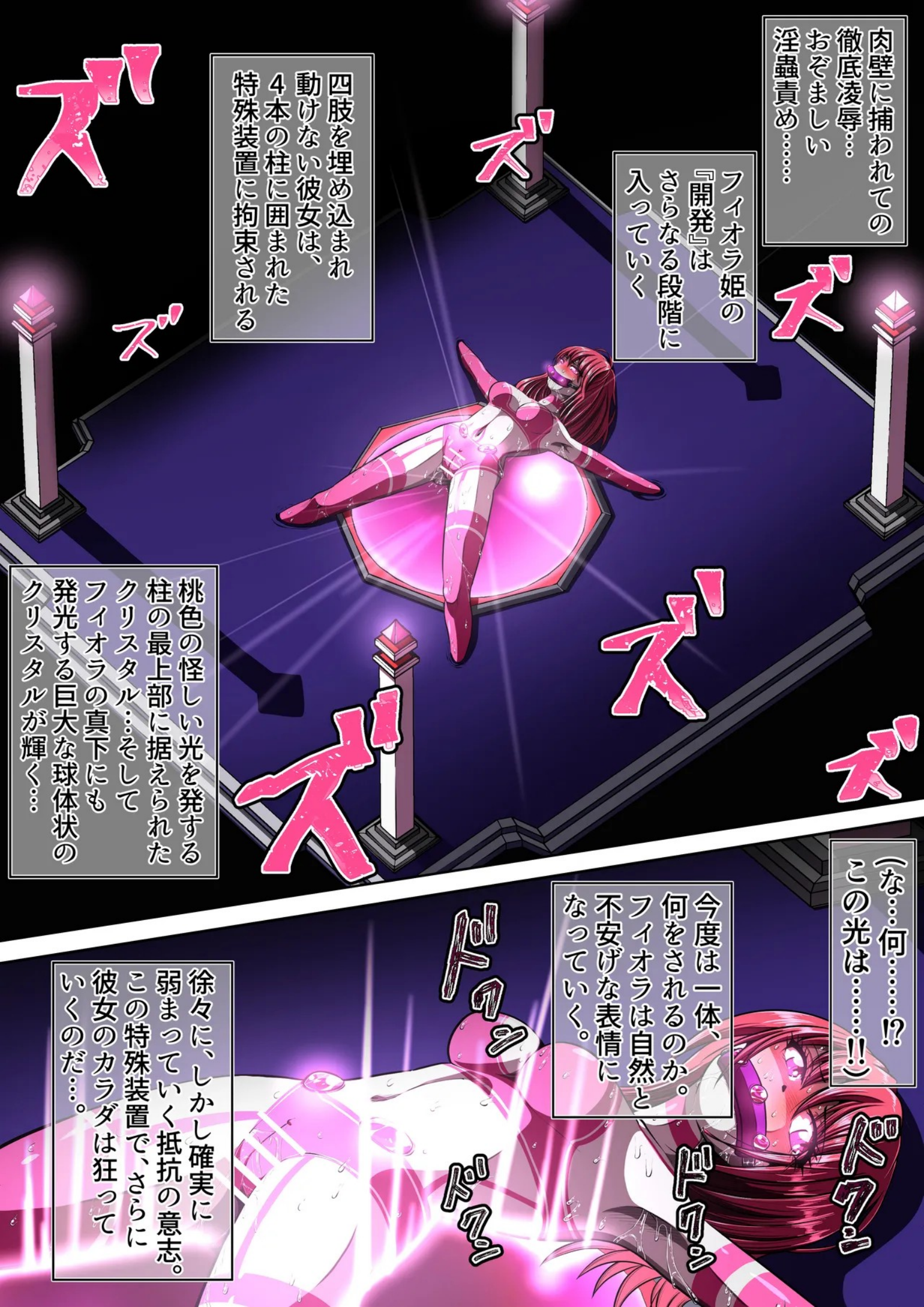

誰の耳にも届くことのない、フィオラ皇女の絶叫が響く。
媚薬まみれにされ、催淫効果の高いガスにカラダの内部まで犯された姫は今、地獄のような連続絶頂を味わっているのだ。
両胸に吸いついた触手は容赦なくフィオラの形の良いバストを引き伸ばし…
下腹部ではイボのついた触手が陰裂を擦り上げ、強烈な快感を休みなく与え続ける。
（死…ぬ…わた…し……このま…ま…じゃ……）
フィオラはあまりの責めに、自らの死すら頭をよぎっていた。
とても耐えられない。こんなことを続けられたら、気が狂うか、あるいはショックで死んでしまうのではないか…と。
だが…触手たちに慈悲などあるはずもない。
首謀者たちに命令されているのか、どれもフィオラに『侵入』はしてこないが……
彼女には何の救いにもならない。
もし、本気でこの触手たちがフィオラを犯し尽くせば…
あるいは本当に、皇女は激烈な感覚に耐えられず、命を落としてしまうだろう。
恐るべき『計画』はまだまだ続いていくのだが……

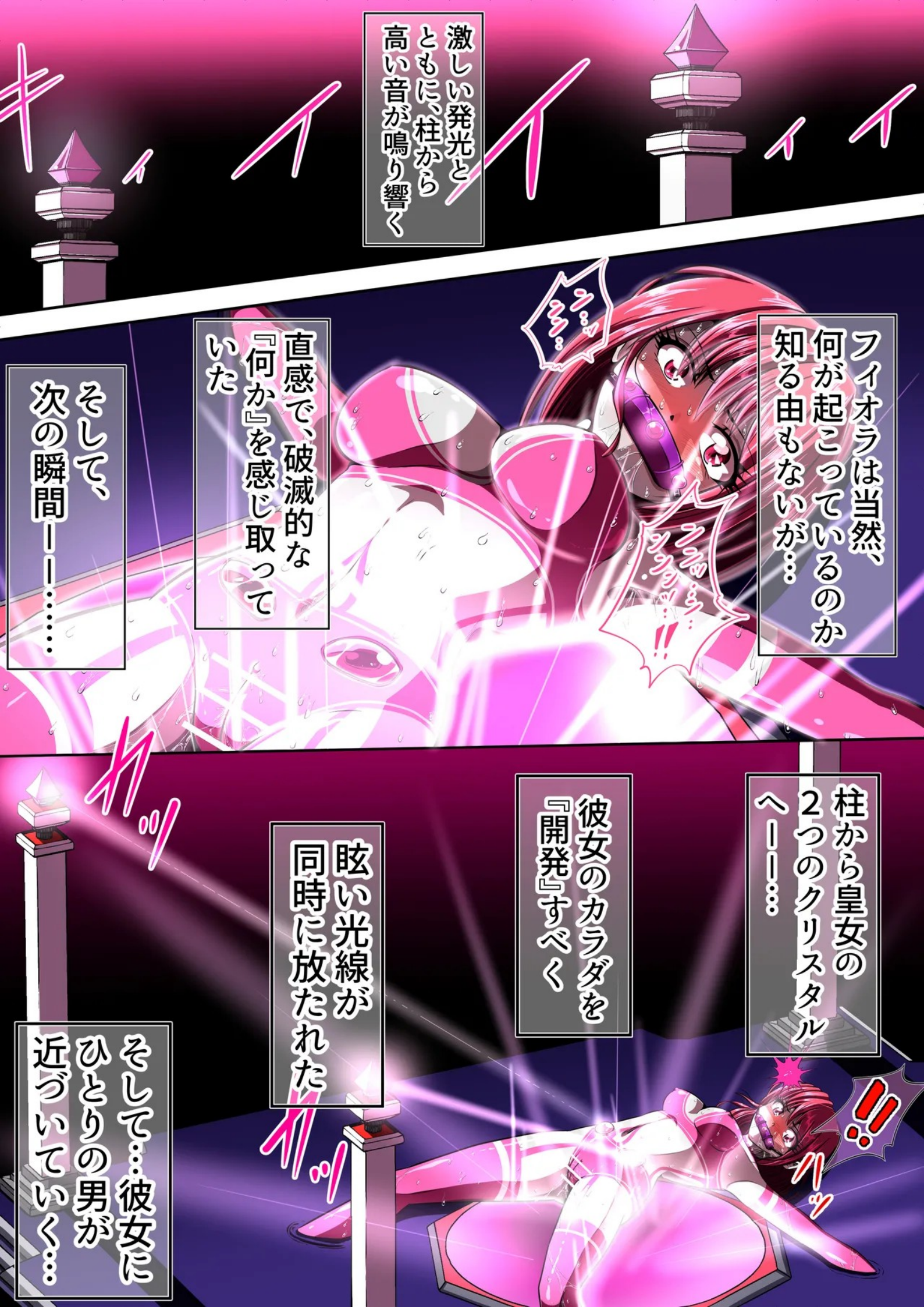
失神と覚醒を繰り返し、
今自分がどこにいるのか、
何をされているのかすら
徐々にわからなくなっていた。
終わりのない凌辱。
あまりにも
希望のない状況に、
フィオラ姫の精神は
崩壊寸前だった。
そして……
とうとう彼女は……
こ…ろし…て…
も…う…
死…なせ…て…
…お…ね…が…い…
殺し…て…

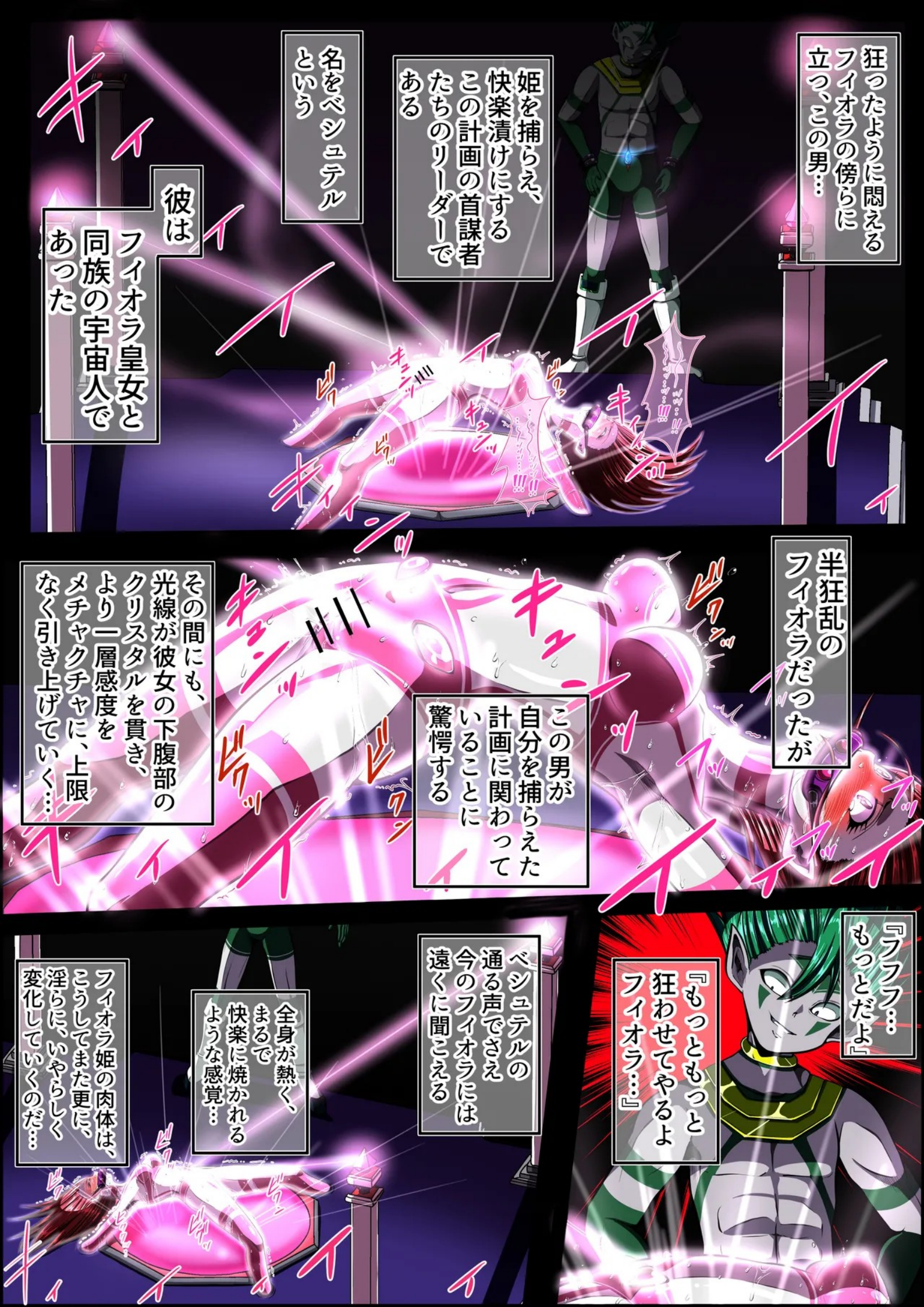
発狂寸前まで
追い詰められた
フィオラ姫だったが…
この『計画』の恐るべき点は
決して決定的なとどめを
刺さない、ということに尽きる
肉壁に捕われての
責めは終わり、しばらく
放置される姫…
だが…次なる責め苦が
ゆっくりと、彼女に文字通り
這い寄っていた…
グヂュ…
ブチュッ…

正気を取り戻したフィオラに、今度はおぞましい蟲がけしかけられる…
ガチャンッ
ガシャンッ
フィオラの感覚をさらに敏感にする効果があるのだ
ボトッ
ボトッ
ボトッ
うっ
あ…
無数の蟲がカラダを這い回る感覚に震える姫…その上、彼等の分泌している体液には…ー
嫌悪感と快感に苛まれ、姫は再び悶えはじめた…『計画』の予定通りに…！

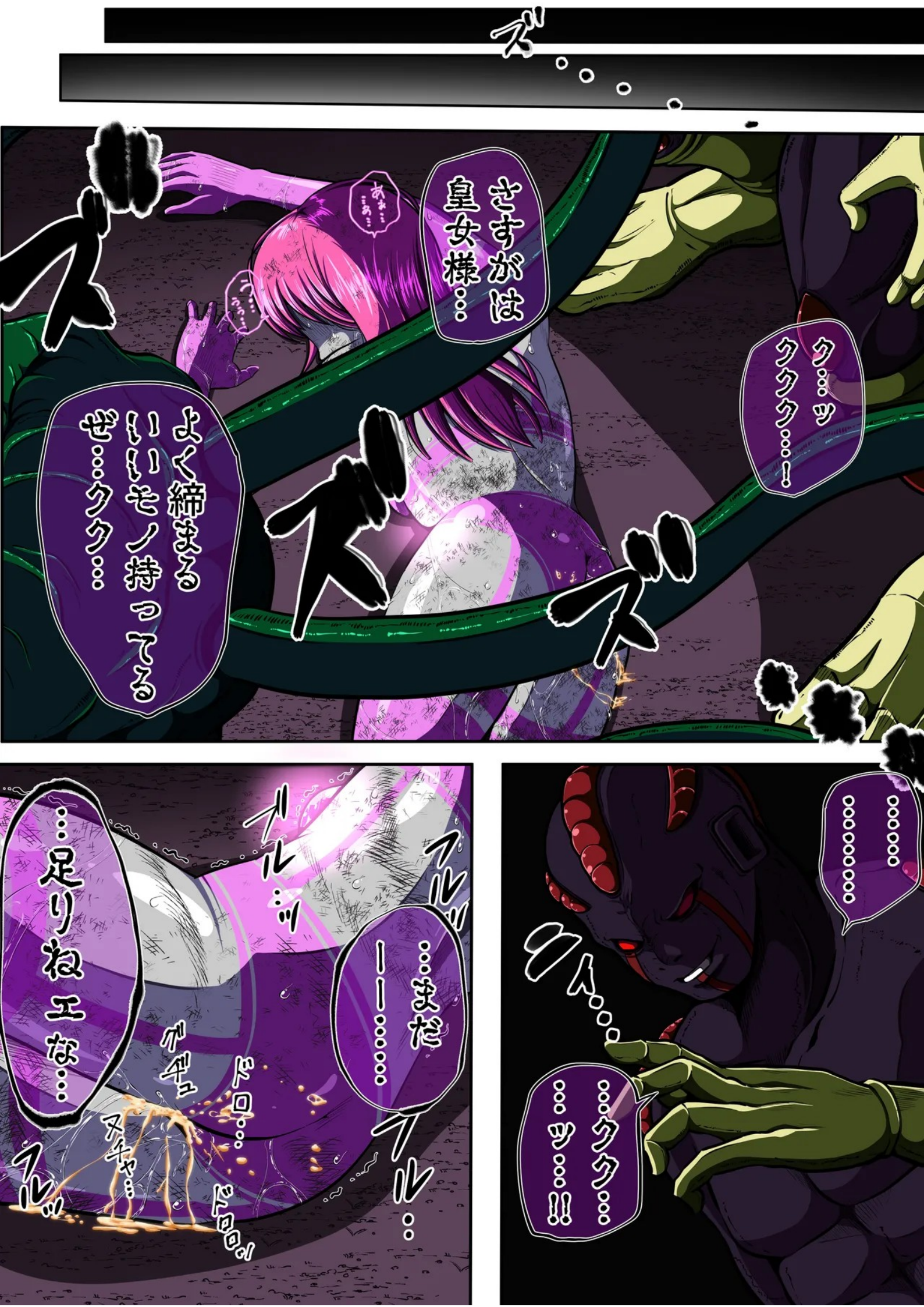

吊し上げられたフィオラ姫の身体を、無遠慮に蟲たちが這い回っている
懸命に全身を揺すり、逃れようとする姫だが粘ついた液体に塗れた蟲は簡単には剥がれない…
乳房に、太腿に、そして恥部に…
まるで媚薬を塗りたくるように蟲たちはうねり這い進んでいく
代わる代わる淫裂に蟲の這う感覚が襲い…
いつか『侵入』されてしまうのではとフィオラは恐怖していた
それほど、普段は閉じられた性器がはっきりと露出していたのだ…

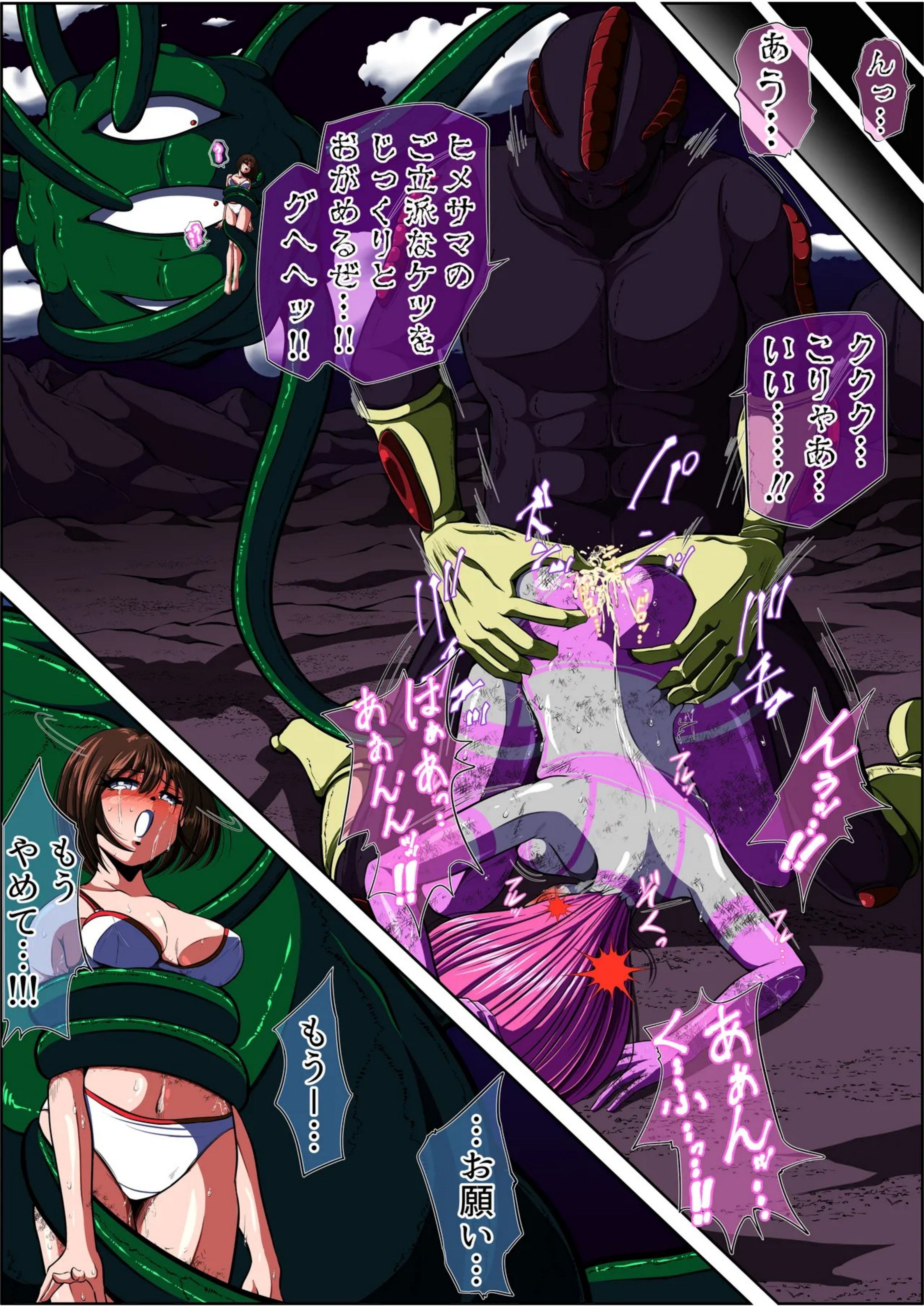

肉壁に捕われての
徹底凌辱…
おぞましい
淫蟲責め……
フィオラ姫の
『開発』は
さらなる段階に
入っていく
四肢を埋め込まれ
動けない彼女は、
4本の柱に囲まれた
特殊装置に拘束される
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
桃色の怪しい光を発する
柱の最上部に据えられた
クリスタル…そして
フィオラの真下にも
発光する巨大な球体状の
クリスタルが輝く…
(な…何……!?
この光は……!!)
今度は一体、
何をされるのか。
フィオラは自然と
不安げな表情に
なっていく。
ドクン
ドクン
ドクン
徐々に、しかし確実に
弱まっていく抵抗の意志。
この特殊装置で、さらに
彼女のカラダは狂って
いくのだ…。


キィィィィィィ
激しい発光とともに、柱から高い音が鳴り響く
フィオラは当然、何が起こっているのか知る由もないが…
直感で、破滅的な『何か』を感じ取っていた
そして、次の瞬間ーーー……
柱から皇女の2つのクリスタルへーーー…
彼女のカラダを『開発』すべく
眩い光線が同時に放たれた
そして…彼女にひとりの男が近づいていく…


狂ったように悶えるフィオラの傍らに立つ、この男…
姫を捕らえ、快楽漬けにするこの計画の首謀者たちのリーダーである
名をベシュテルという
彼はフィオラ皇女と同族の宇宙人であった
半狂乱のフィオラだったが
この男が自分を捕らえた計画に関わっていることに驚愕する
その間にも、光線が彼女の下腹部のクリスタルを貫き、より一層感度をメチャクチャに、上限なく引き上げていく…
『フフフ…もっとだよ』
『もっともっと狂わせてやるよフィオラ…』
ベシュテルの通る声でさえ今のフィオラには遠くに聞こえる
全身が熱く、まるで快楽に焼かれるような感覚…
フィオラ姫の肉体は、こうしてまた更に、淫らに、いやらしく変化していくのだ…

フィオラの肉体は
より淫らに、感じやすく…
まるで別人のような
それに変えられていった
このフィオラ皇女に対する
『開発』、『調教』、『淫乱化』を
目的とした計画は、俗に
『1000年計画』と呼ばれている
フィオラに刻まれた
凌辱の深い痕…
それが今、ブラン星人の
策略によりよみがえり、
再び皇女に牙を剥いて
襲いかかったのである…


ズ…
さすが皇女様…
あぁ…
ク…ッ
ククク…！
よく締まるいいモノ持ってるぜ…クク…
…クク…
…ッ…!!
……
……
ブル…
ブル…ッ
…まだ
ーー……
ブル…
…足りねェな…
ブルッ
ドロ…
ドロ…!
グチュ
ヌチャ…



んっ…
あう…
ヒメサマのご立派なケツをじっくりとおがめるゼ…!! グヘヘッ!!
ククク… こりゃあ… いい……!!
はぁあっ… あぁんんッ!!
あぁんッ… くふぅ…!!
もうやめて…!!!
もうー…
…お願い…

!!
ひ…か…
ひか…る…
お願…い…
フィ…
フィオラ…!!
ククッ…!!
そらッ…!
そう…らッ…!!
お願い…!!
んあッ!!
うぁあッ!!
あンンッ!
見ないで…!!
こんな私…で…
見ない…で…!!!

見ないで…だと？
お願い…光……！
そりゃねエだろ ククク…!!
見てもらおうぜえ…… クククッ…!!
…ッ…!!
ザッ
こんなに燃えてんじゃねエか…!!
…おたがいに…ッ …よオオ…ッ!!!
クククッ… そオらッ!!!

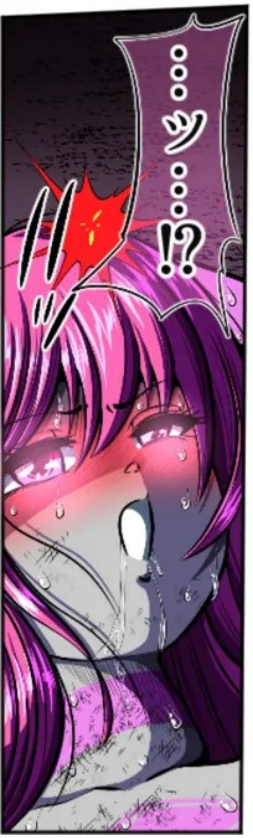
あ…あ…
あぁ…
ど…どうすれば……!!
一体……どうすればいいの…!?
もう…何も!!……
フィオラが……!
フィオラがいじめられているのに……!!
私には何も出来ないの……!?
あぐっ!!
あぁ…
あぁ…!!

クク…
まだ…ー
そんな顔ができるのかヒメサマよオ…
こりゃまだまだ楽しめそうだな…
ククク…
…よし…
そうだ…!!
ズ
ズ
ビキ…
くっ…
…ッ!!
なっ…
な…んで
すって…!?
あの地球の小娘…
ニヤ…
せっかくだアレを使おうか…!
クク
やる気出るだろ?
お優しいフィオラ様

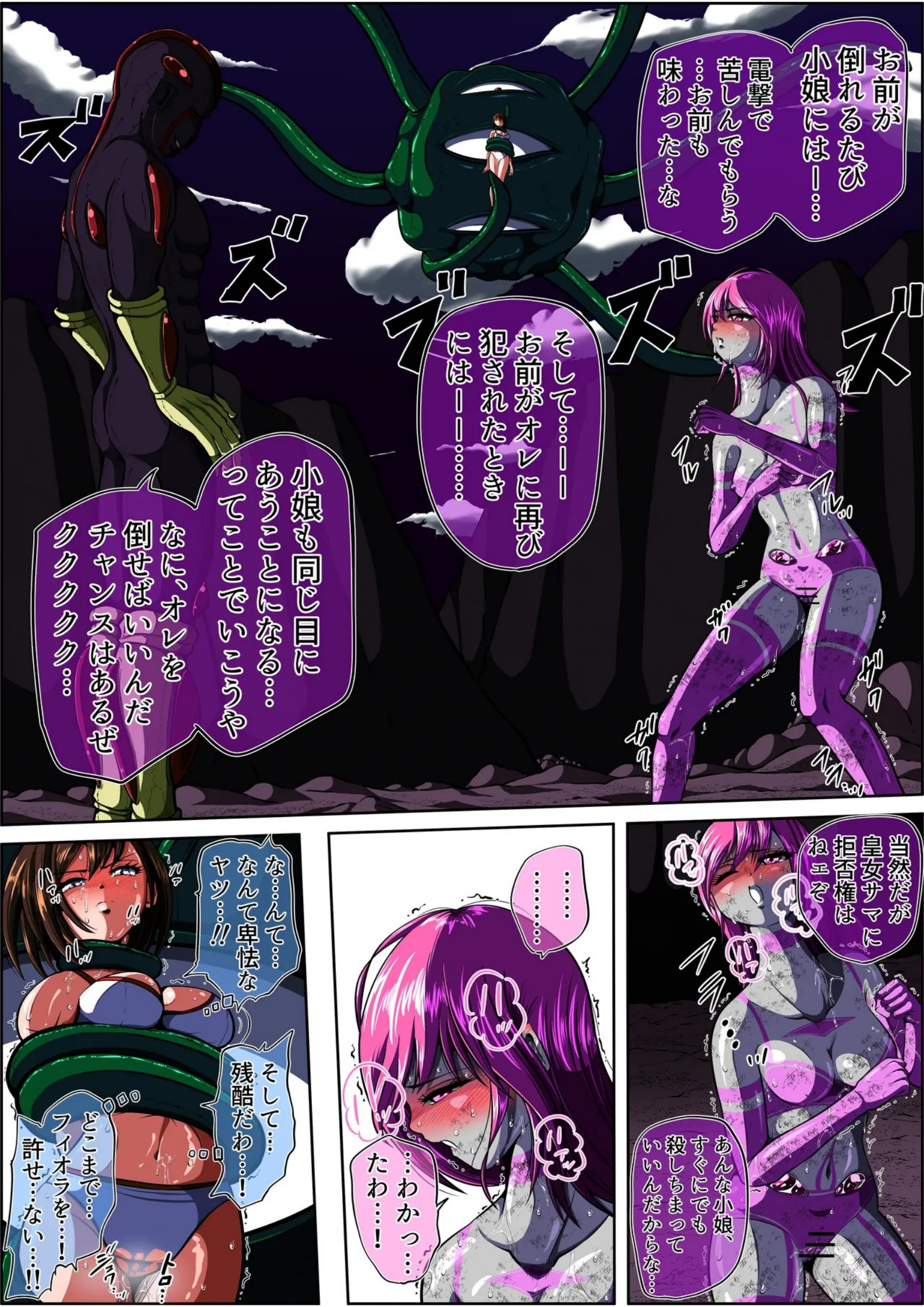
ひっ…
光…を…
ーー!…
彼女…をっ…
どう…する
気なのっ…!?

ククク
お前ら元々
一心同体
だろ?
なのによォ…
姫サマだけ
気持ちよく
なんのは良く
ねェよな…

わ…私は
き…気持ちよく
なんか…ッ…!!
クハハハッ!
強がってんじゃ
ねェよ…!

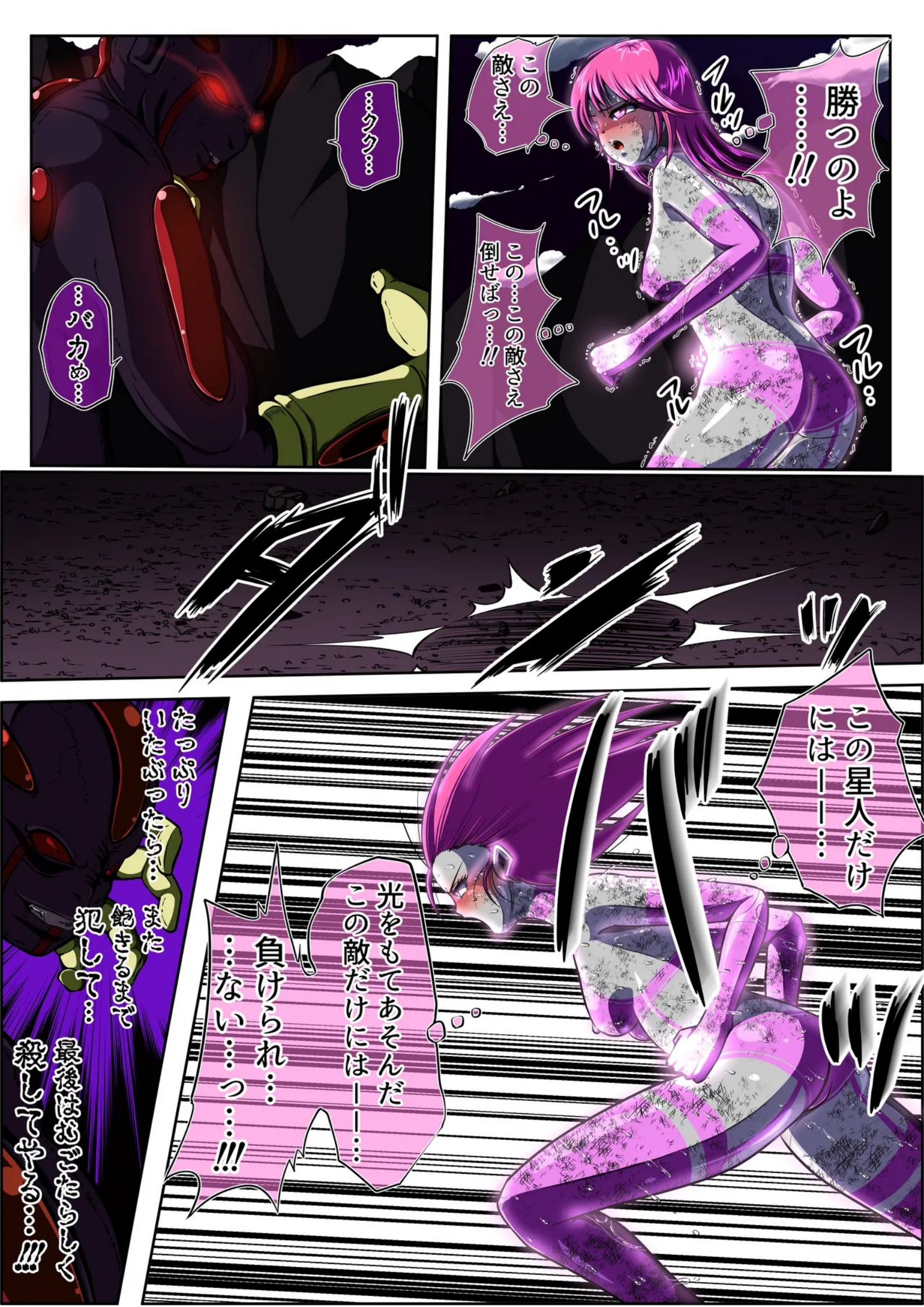

…ッ…!?

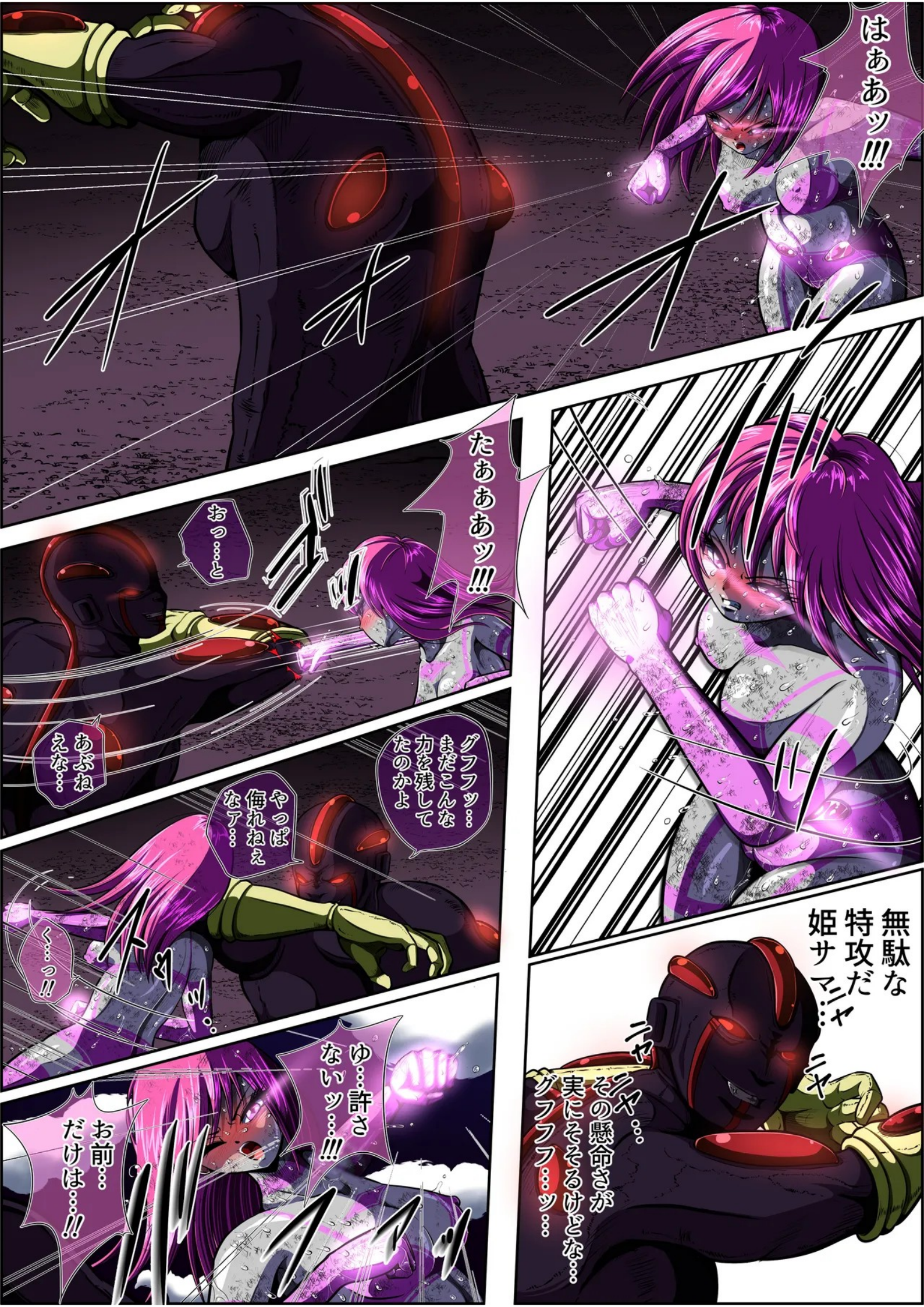
オレと
改めて戦おう
か……
あの小娘を
賭けて……な


お前が倒れるたび小娘にはー…
電撃で苦しんでもらう…お前も味わった…な
ズ
ズ
ズ
ズ
そして…ーーお前がオレに再び犯されたときにはーーー……
小娘も同じ目にあうことになる…ってことでいこうやなに、オレを倒せばいいんだチャンスはあるぜククククク…
当然だが皇女サマに拒否権はねェぞ
あんな小娘、すぐにでも殺しちまっていいんだからな…
……
……
…わかった…たわ…！
な…んて…なんて卑怯なヤツ…!!
そして…残酷だわ…！
どこまで…フィオラを…！許せ…ない…!!
トロ…

戦ろうや 皇女サマ…!!
ーーじゃ
光を助けるためなら…私のーー…
…光をーーー……
私の命…!!
無くしてもかまわないッ…!!
……!

守りにまわす力なんてーーー……ーー
ブル
ブル
フル…
フル
フル…
フル…
いらない!!
フル…
……
ハァ…
集中させるのよ…!!
最後の力を…!!!
お願…い…神様……!!
ハァ…
ハァ…
フィオラを…
あの優しい姫を守って…下さい…!!!

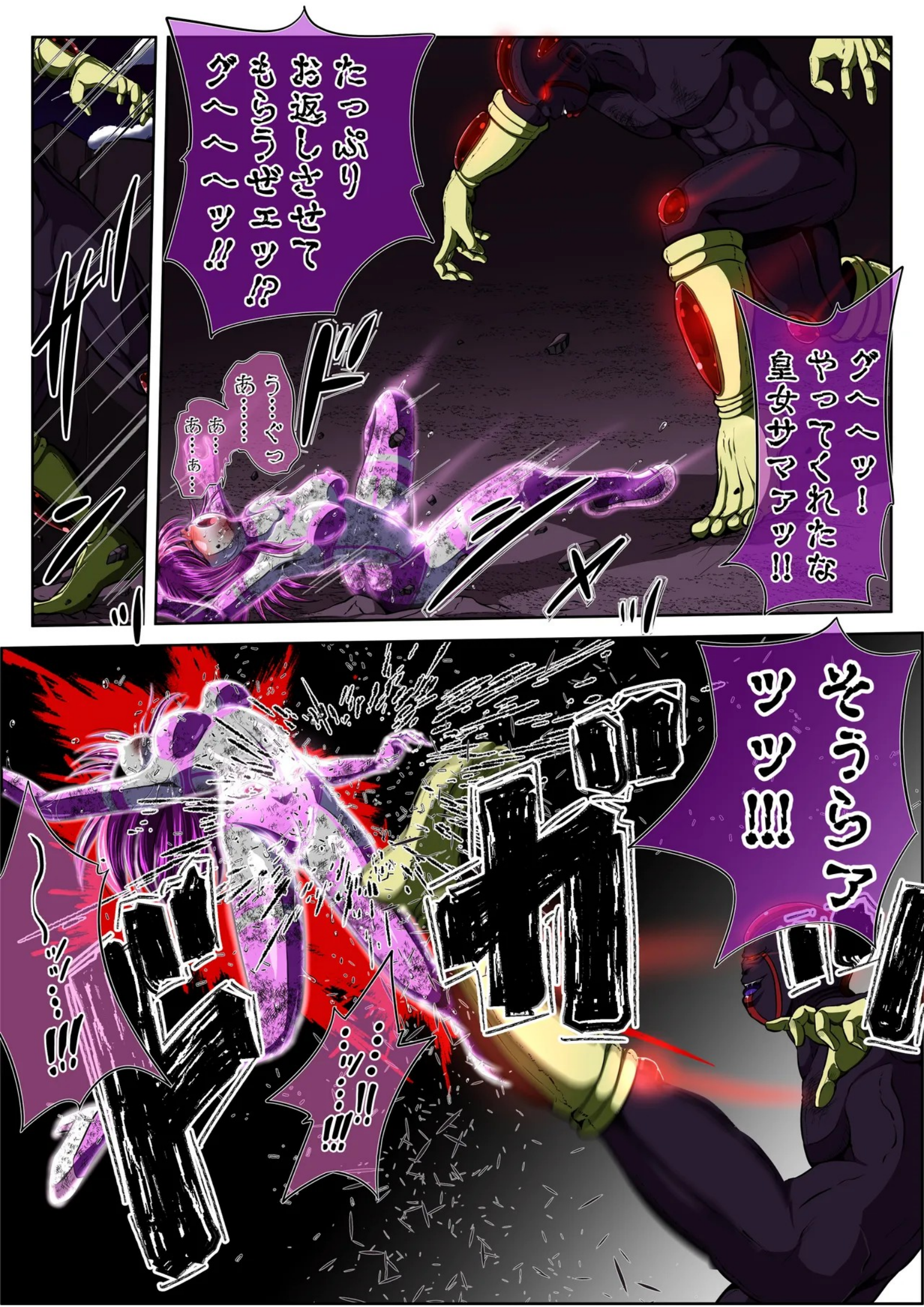

勝つのよ……!!
この敵さえ…
この…この敵さえ倒せばっ…!!
フル…
フルル…
フルル…
フル…
…クク…
…バカめ…
この星人だけにはーー…
光をもてあそんだこの敵だけにはーー…
負けられ…ない…っ…!!!
たっぷりいたぶったら…また飽きるまで犯して…最後はむごたらしく殺してやる…!!!

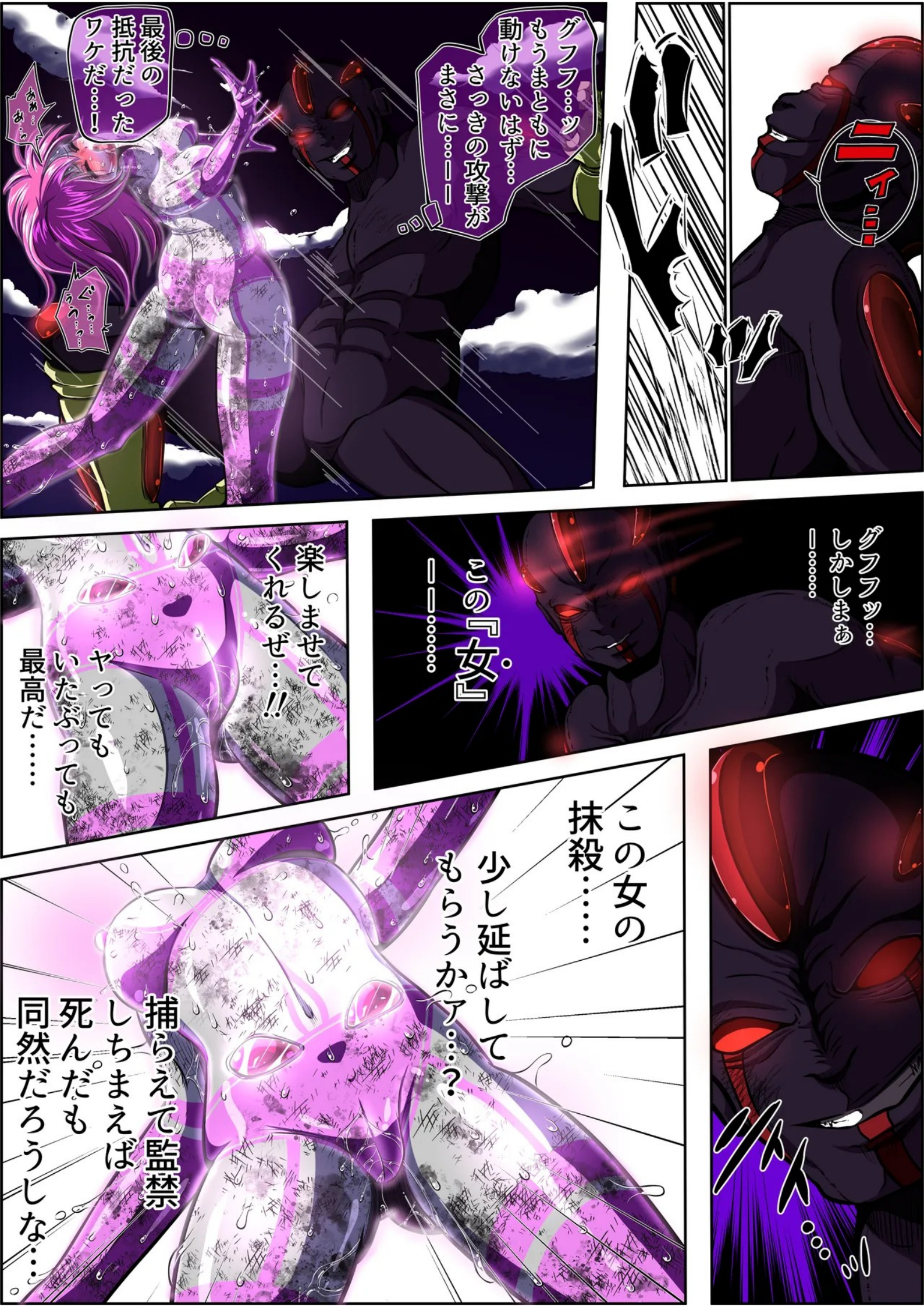

はぁあッ!!!
無駄な特攻だ姫サマニャ…
ニャ…
ニャ…
その懸命さが実にそそるけどな…
グフフ…ッ…
たぁあッ!!!
おっ…と
あぶねえな…
グフッ…まだこんな力を残してたのかよ
やっぱ侮れねぇなァ…
く…っ!!
ゆ…許さないッ…!!!
お前…だけは…!!

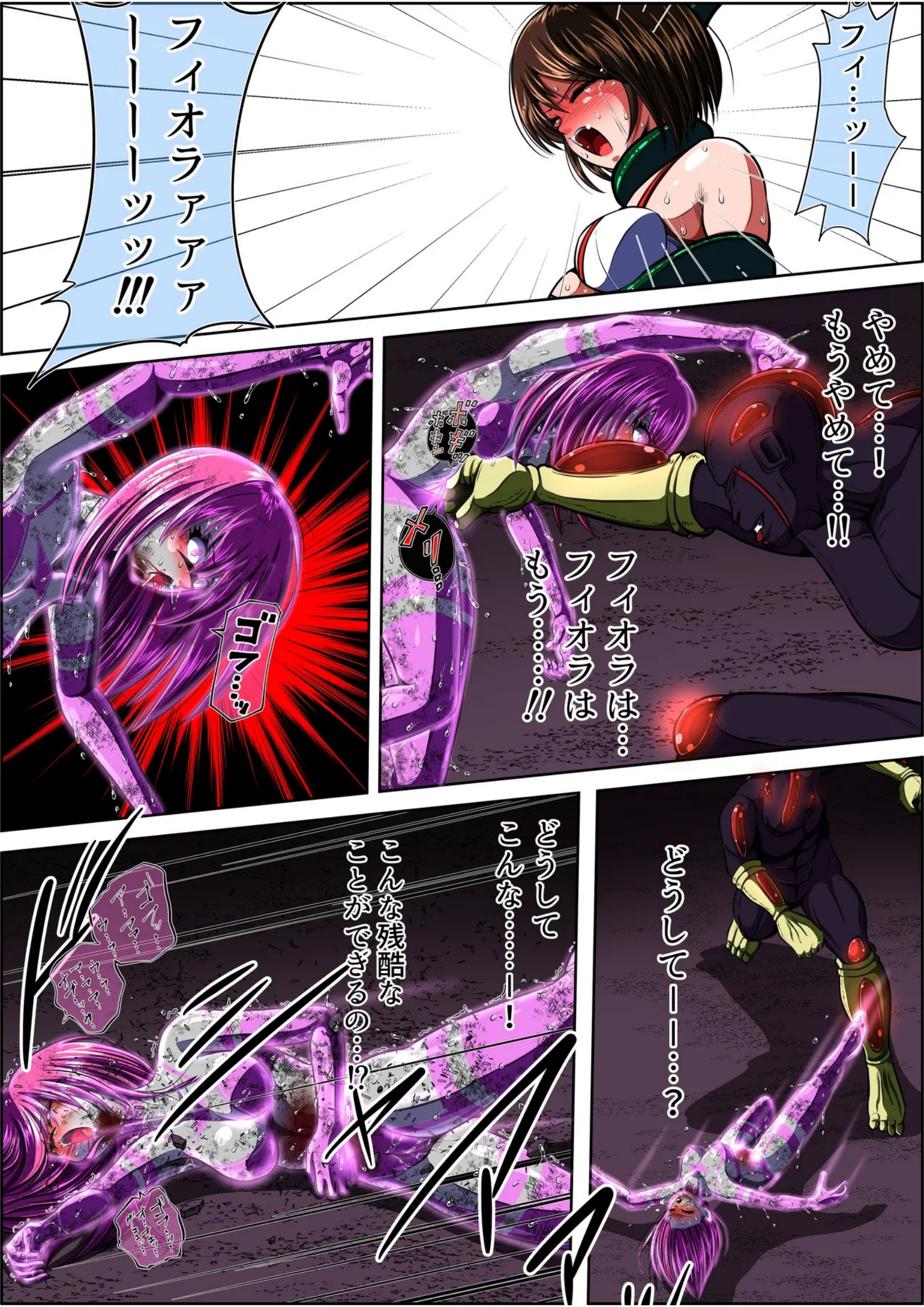
はあぁッ!!
フン…
当たらねェな
……
…ッ…!!
ム…!!
てやあああッ!!!
!!
こ…この女ー……!!!
なんだ…!?
さんざん犯ってやったのに……ーー
…ッ…
グッ…!!
こ…の動きは…!?

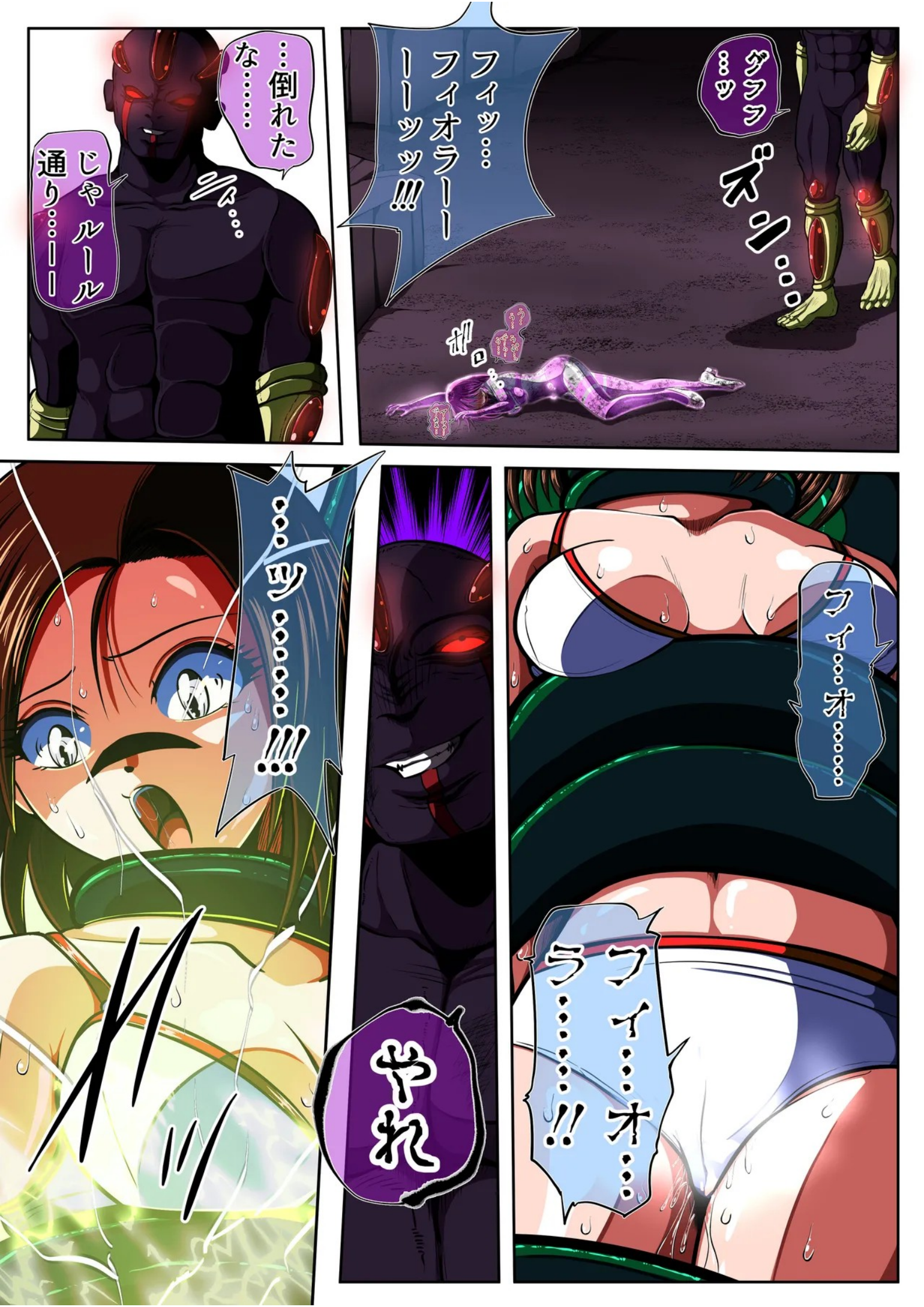
私と…ーー……
私と光を…ーー…ッ…
甘く…ッーー…!
ゲ…ッー!
ウグッ…
見ないでッ……!!!
ドドドドドド
小娘…が…!
こ…この…ー
ギリッ
ぞくっ…
調子に乗ってんじゃーーー………
ねえぞッッ!!!!
オオオオ

オオラッッ!!
う…ぐっ……!!
…あ…っ…
…う…
!
フィオラ!!
は…反応…は…できて…た…
で…でも……
も…もう…カラ…ダが…
カラダ…が…
思う…ように……!
動かな…い…!…


グヘヘッ！
やってくれたな
皇女サマァッ!!
たっぷり
お返しさせて
もらうぜェッ!?
グヘヘヘッ!!
う…ぐっ
あ……
あ…
あ…あ…
そらァ
ッッ!!!


ニィ…
グフフ…ッ
もうまともに
動けないはず…
さっきの攻撃が
まさに……ーー
最後の
抵抗だった
ワケだ…！
あぁ…ぁ…
んぐ…ぅ…ぅ…
グフフッ…
しかしまぁ
ーー……
この『女』
ーー……
楽しませて
くれるぜ…!!
ヤっても
いたぶっても
最高だ……
この女の
抹殺……
少し延ばして
もらうかァ…？
捕らえて監禁
しちまえば
死んだも
同然だろうしな…
グ…ト…ッ…


フィ…ッーー
フィオラァァァーーーーッッ!!!
やめて…!
もうやめて…!!
フィオラは…
フィオラは
もう……!!
ゴギッ
ボキッ
ゴフ…ッ
どうしてーーー…?
どうして
こんな……ー!
こんな残酷な
ことができるの…!?


グフフ…ッ
ズン…
フィッ…
フィオラーーーッッ!!!
…倒れたな……
ニィ…
じゃルール通り…ーー
フィ…オ……
フィ…オ…ラ……!!
やれ
…ッ……!!!

あああああーーー!!!
ビクッ
ビクッ
ビクンッ
!!!
あ…あ…
ぐううっ…!!
バチッ
バチッ
ンッ…!!
ンンンッ…!!!
ひっ…ひっ…
ーーー…
光ウウウ
ーーーッッ!!!

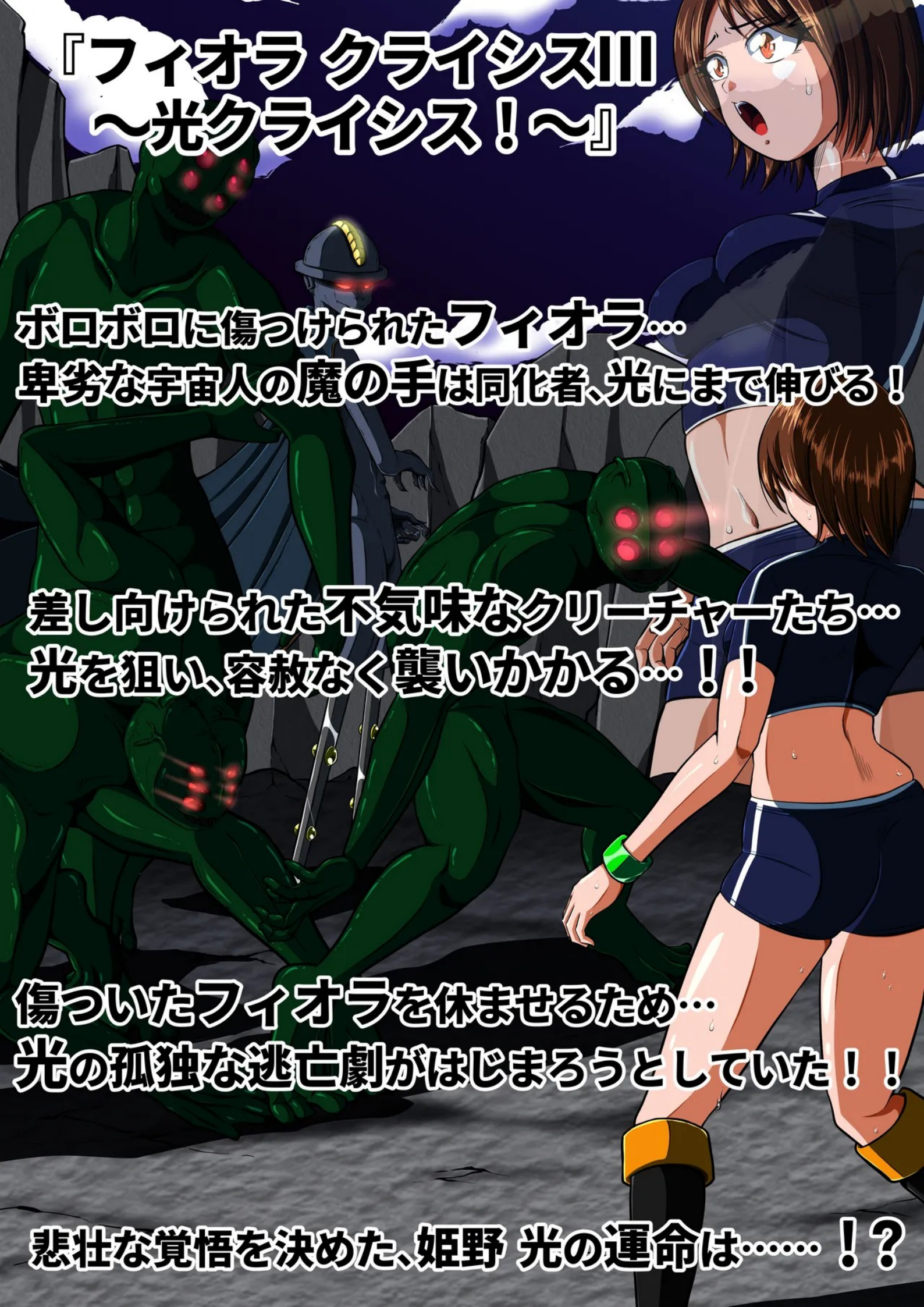
ダメ…
ダメよ…
光は…
光は普通の
地球人なのよ…
あんな
強力な電撃を
受けたら…
殺されて
しまう……!!
ドクン
ドクン
光が……
ドクン
光が……!!

グフフッ
いい声だ…
あの女も実に
いたぶりがいが
あるぜ…
グフフ…
…ッ…!!
や…
…や…
バチ
バチ
バチ
やめさせてッ!!
お願いッッ!!!
グ…
グ…
やめて!!!
やめてぇッ!!!
…フフッ
今さら何を
わめいてやがる
ニヤ
ニヤ
ニヤ。
言ったはず
だぜ?
お前がたおれ
たら――…
あの女が
苦しむことに
なるってな
たっ…
立つわッ!!!
すぐ…今すぐ
立つ…から…
……ッ…!!!
…フ……
グフ…ッ
そう…こなくちゃな…!!!

『フィオラ クライシス V』へ続く…！

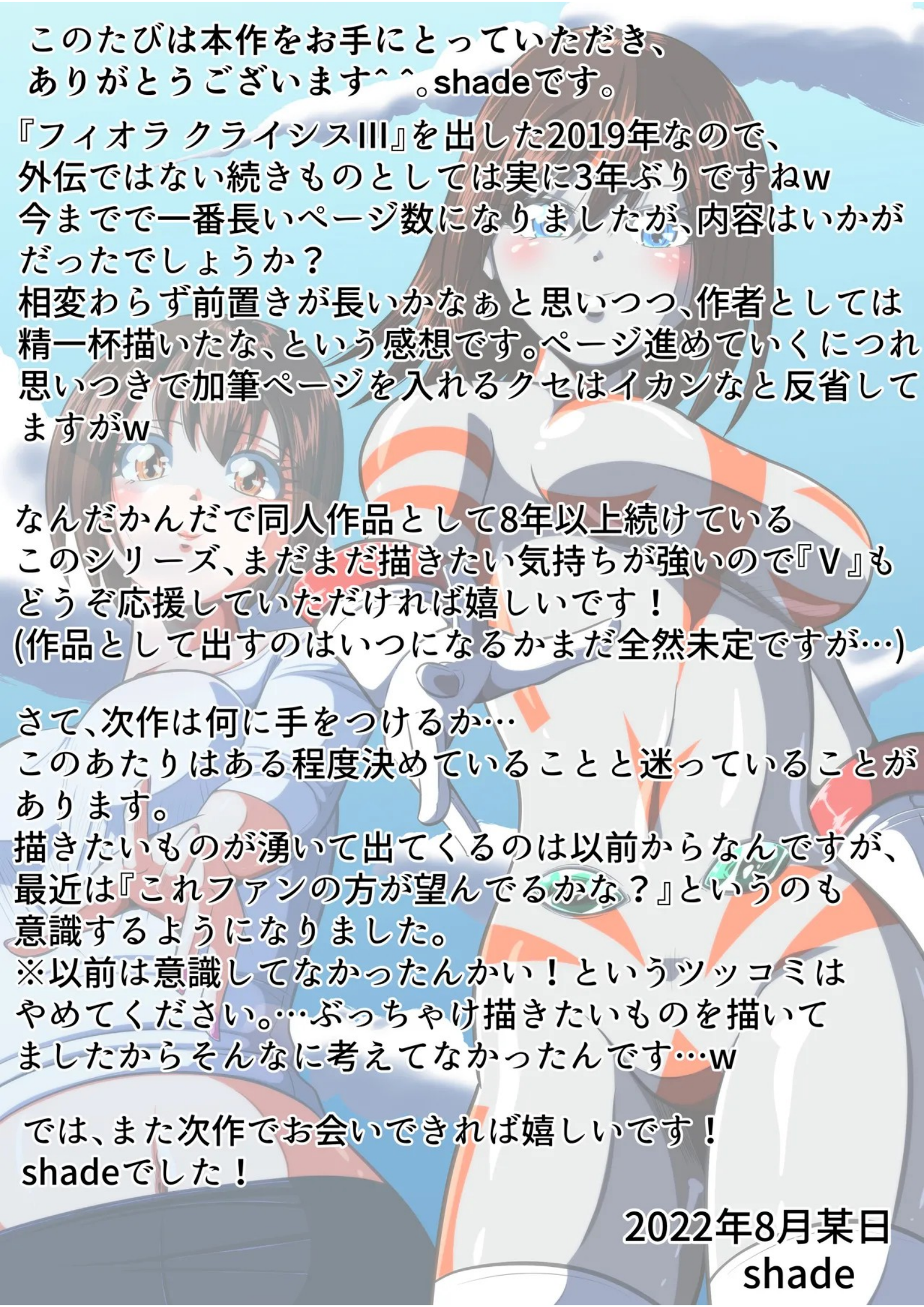
『フィオラ クライシス Ⅰ』
自身を狙う星人の作り出した亜空間にて
宇宙凶暴猿・ゴルルグと戦うフィオラだったが…
度重なる怪獣との戦いで消耗している彼女は
ゴルルグの力任せの猛攻に大苦戦してしまう…！
容赦なくボロボロにされていく姫…
果たして勝機を見出すことはできるのか…

『フィオラ クライシスII
～残酷！ブラン星人の罠！～』
ゴルルグに散々いたぶられたフィオラ…
抵抗のすべを失った彼女に、さらなる受難が…！
激痛、そして快楽を特殊針によって流し込まれ、
姫のカラダはひたすらに翻弄される！
ブラン星人のフィオラ姫抹殺計画は
着々と進んでいく…！！


『フィオラ クライシスIII
～光クライシス！～』
ボロボロに傷つけられたフィオラ…
卑劣な宇宙人の魔の手は同化者、光にまで伸びる！
差し向けられた不気味なクリーチャーたち…
光を狙い、容赦なく襲いかかる…！！
傷ついたフィオラを休ませるため…
光の孤独な逃亡劇がはじまろうとしていた！！
悲壮な覚悟を決めた、姫野 光の運命は……！？

そして…
あなたにウソはつかない…！
どうしても…抑えられない…！
『フィオラクライシスIV』へ…
フィオラと光の苦闘はまだまだ続いていく！！
ふたりの運命は…！？

フィオラ姫、
ついにブラン星人に
敗北…!!
絶望の凌辱劇が
幕を開ける…!?
フィオラクライシスIV
～絶望のバトル!! 堕ちた皇女…!?～



このたびは本作をお手にとっていただき、
ありがとうございます^^。shadeです。

『フィオラ クライシスIII』を出した2019年なので、
外伝ではない続きものとしては実に3年ぶりですねw
今までで一番長いページ数になりましたが、内容はいかがだったでしょうか？
相変わらず前置きが長いかなぁと思いつつ、作者としては精一杯描いたな、という感想です。ページ進めていくにつれ思いつきで加筆ページを入れるクセはイカンなと反省してますがw

なんだかんだで同人作品として8年以上続けているこのシリーズ、まだまだ描きたい気持ちが強いので『V』もどうぞ応援していただければ嬉しいです！
(作品として出すのはいつになるかまだ全然未定ですが…)

さて、次作は何に手をつけるか…
このあたりはある程度決めていることと迷っていることがあります。
描きたいものが湧いて出てくるのは以前からなんですが、最近は『これファンの方が望んでるかな？』というのも意識するようになりました。
※以前は意識してなかったんかい！というツッコミはやめてください。…ぶっちゃけ描きたいものを描いてましたからそんなに考えてなかったんです…w

では、また次作でお会いできれば嬉しいです！
shadeでした！

2022年8月某日
shade